

第3学年 社会科年間指導計画

月	単元	小単元	ページ	到達目標(活動目標)	時間	評価規準	主な評価の観点			評価の方法	既習事項で押さえるべき内容	上級学年・中学校との関連
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
4		導入	8・9	・航空写真を手がかりに、市の特色ある地形や土地利用の様子などを概観し、わたしたちが住むまちのどこにどのようなものがあるのか関心をもつことができる。	1	・航空写真を手がかりに、市の特色ある地形や土地利用の様子などについて気付いたことや気になることを見付けている。	○			発言 ノート	【生活】 ・自分たちの地域や自然に興味・関心をもつこと ・学校の周辺にはいろいろな施設や自然があることに気付くこと ・地域の関心のある場所を探検すること ・学校の周りにはいろいろな施設や自然があることに気付くこと	・わたしたちの県のようにす(小4) ・日本の国土と人々の暮らし ・わたしたちの食生活を支える食料生産 ・工業生産とわたしたちの暮らし(小5)
			10～13	・生活科での学習や生活経験、住所などを手がかりに、わたしたちが住んでいるまちがどのようなところにあるのか関心をもつことができる。	1	・生活科での学習や生活経験、住所などを手がかりにし、わたしたちが住んでいるまちがどのようなところにあるかについて関心をもとうとしている。			○	観察 発言		
			14・15	・市の様子について話し合い、わたしたちの住むまちや市の様子について学習問題をつくり、調べる計画を立てることができる。	1	・予想を話し合い、わたしたちの住むまちや市の様子について学習問題をつくり、調べる計画を立てようとしている。			○	発言 ノート		
			16・17	・学校のまわりの様子を詳しく調べるために、調べたいことや調べる方法を明確にし、見学の計画を立てることができる。	1	・学校のまわりの様子を詳しく調べるために、調べたいことや調べる方法を明確にし、見学の計画を立てている。	○			発言 ノート		
			18・19	・学校のまわりの様子を調べるために見学に出かけ、観察したりインタビューしたりして気付いたことやもっと知りたいことを見学カードにまとめることができる。	2	・学校のまわりの見学に出かけ、観察したりインタビューしたりして気付いたことを見学カードにまとめている。		○		発言 ノート		
			20・21	・学校のまわりの様子について、前時に作成した見学カードをもとに白地図にまとめ、教師が作成した地図と見比べて、地図記号や方位を使うことのよさを理解することができる。	2	・学校のまわりの様子について、前時に作成した見学カードをもとに白地図にまとめ、教師が作成した地図と白地図を比べ、地図記号や方位を使うことのよさを理解している。	○			発言 ノート		
			22・23	・駅周辺の写真や地図、交通図などから、人が多く集まるところと交通の便のよさとの関係を読み取り、理解することができる。	1	・姫路駅周辺に人々が集まるのは、周辺の施設の充実だけでなく、交通の便と関係が深いことをとらえ、そのよさによって、より多くの人が集まることを理解している。	○			発言 ノート		
			24・25	・地図や写真、「市役所の案内所の人の話」などから、公共施設の位置や働きについて理解することができる。	1	・地図や写真、「市役所の案内所の人の話」などから、市役所など主な公共施設の位置や働きについて理解している。	○			発言 ノート		
5		わたしたちの住んでいる市のように	26・27	・地図や写真、「観光案内所の人の話」などを読み取り、市に古くから残る建造物や伝統的な町並みの位置や広がり、町名のいわれなどについて調べ、理解することができる。	1	・写真や地図、観光案内所の人の話などを手がかりに、市に古くから残る建造物や伝統的な町並みの位置や広がり、町名のいわれなどについて、理解している。	○			発言 ノート		
			28・29	・地図や写真、「農業振興センターの人の話」などを読み取り、平らな土地と川や池の水を生かした土地利用の様子と人々の生活を関連付けて考え、適切に表現することができる。	1	・自然が豊かで田や畑が多いところを調べ、土地利用の様子を人々の生活と関連付けて考え、表現している。		○		発言 ノート		
											学習指導要領解説第3学年の目標(1)に「 身近な地域や市区町村 の地理的環境、地域の安全を守るための諸活動や地域の産業と消費生活の様子、地域の様子の移り変わりについて、人々の生活との関連を踏まえて理解するとともに、調査活動、地図帳や各種の具体的資料を通して、必要な情報を調べまとめる技能を身に付けるようにする。」と示されている。 カリキュラムは、教科書に沿って作成しているため、他地域や他市を記載しているが、	

月	単元	小単元	ページ	到達目標(活動目標)	時間	評価規準	主な評価の観点			評価の方法	既習事項で押さえるべき内容	上級学年・中学校との関連
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
6			30・31	・山に囲まれ、自然豊かな森林が多いところの様子を調べ、豊かな自然を生かした林業や観光など、土地利用の様子と人々の生活を関連付けて考え、適切に表現することができる。	1	・自然が豊かで森林が多いところを調べ、土地利用の様子を人々の生活と関連付けて考え、表現している。		○		発言ノート		
			32・33	・海に近いところの様子について、工場が多い理由を調べ、土地利用の様子が地形条件や社会的な条件と関わりがあることを考えることができる。	1	・海に近いところの様子について、工場が多い理由を調べ、土地利用の様子が地形条件や社会条件と関わりがあることを考え、表現している。		○		発言ノート		
			34・35	・まわりを海に囲まれた島の様子について調べ、土地利用の様子が地形条件や社会的な条件と関わりがあることを考えることができる。	1	・まわりを海に囲まれた島の様子について調べ、土地利用の様子を人々の生活と関連づけて考え、表現している。		○		発言ノート		
			36～39	・市は場所によって違いがあることを理解し、場所による違いを白地図に色分けしてまとめ、県内における市の位置を確かめることができる。	1	・土地利用図や航空写真などの資料から、市の様子は場所によって違いがあることを理解し、白地図を色分けしたり、地図記号を使ってまとめたりしようとしている。			○	発言ノート		
			40～43	・これまでの学習を振り返り、場所による市の様子の違いについて話し合い、自分の考えたことをガイドマップにまとめ、表現することができる。	1	・これまでに学習した市の場所による違いを話し合い、住んでいる市の様子をガイドマップにまとめ、表現している。		○		発言ガイドマップ		
	導入	工場ではたらく人びとの仕事(選択)	44・45	・工場や田畑、商店で働く人の写真や生活経験をもとに話し合うことを通して、自分たちの市で働く人々の様子や工夫、自分たちのくらしとのつながりなどに関心をもつことができる。	1	・工場や田畑、商店で働く人の写真や生活経験をもとにした話し合いを通して、自分たちのまちで働く人々の様子や工夫、自分たちのくらしとのつながりに関心をもとうとしている。			○	発言	【生活】 ・地域にある様々な施設やそこで働いている人に関心をもつこと ・自分たちの地域や自然に興味・関心をもつこと ・植物を育てる時に必要なもの ・植物の生長に興味・関心をもつこと	・わたちたちの県のようにす(小4) ・わたしたちの食生活を支える食料生産 ・工業生産とわたしたちのくらし(小5)
			46・47	・市内にある主な工場の地図や販売されている製品の写真をもとに、自分たちの市でつくられているかまぼこに関心をもち、学習問題をつくり、学習計画を立てることができる。	1	・自分たちの市でつくられているかまぼこに関心をもって学習問題をつくり、調べる計画を立てようとしている。			○	発言ノート		
			48・49	・かまぼこの袋や工場の模式図などから、原材料や主なつくり方を予想しながら、さらに調べたいことを話し合うことで、工場見学の計画を立てることができる。	1	・工場見学にあたって、「見て調べること」と「聞いて調べること」に整理して見学の計画を立てようとしている。			○	ノート		
			50・51	・かまぼこ工場の見学や工場で働く人へのインタビュー、パンフレットをもとにして、かまぼこができるまでの工程を理解することができる。	1	・かまぼこ工場を見学してわかったことやインタビュー、工場見学の際にもらったパンフレットをもとにして、かまぼこができるまでの工程を理解している。	○			発言ノート		
			52・53	・安全でおいしいかまぼこづくりをおこなっているかまぼこ工場や、そこで働いている人々の様子について、見学ノートをもとに話し合い、考えを深めることができる。	1	・安全でおいしいかまぼこづくりをおこなっているかまぼこ工場や、そこで働く人々の様子について話し合い、考えをまとめている。		○		発言ノート		
7												

月	単元	小単元	ページ	到達目標(活動目標)	時間	評価規準	主な評価の観点			評価の方法	既習事項で押さえるべき内容	上級学年・中学校との関連
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
わたしたちのくらしとまちではたらく人びと	畑ではたらく人びとの仕事(選択)		54・55	・工場の立地を調べる活動を通して、海の近くから山の中へ移ってきたことを、かまぼこの原料や運び方、自分たちの市の地形や交通の様子に着目して考えることができる。	1	・かまぼこ工場が、広い土地ときれいな水を求め、高速道路にも近い現在の場所へ移ってきたことを、原料や運び方、市の地形や交通の様子と関連付けて考え、表現している。		○		ノート		
			56・57	・かまぼこの出荷について調べたことを白地図にまとめ、わたしたちの生活や他地域とのつながりを理解することができる。	1	・かまぼこの出荷についてわかったことを白地図にまとめ、わたしたちの生活や他地域とのつながりを理解している。	○			発言 ノート		
			58・59	・これまでに調べた具体的な事実や、調べたことから考えたことなどを工夫して表現することで、かまぼこの生産と自分たちのくらしとのつながりについて考えることができる。	1	・かまぼこのよさを知らせるポスターづくりを通して、かまぼこの生産とわたしたちのくらしとの関連を考え、表現している。		○		ノート		
		畑ではたらく人びとの仕事(選択)	60・61	・市内で作られているおもな農作物の地図や市の市場に多く入荷されている農作物のグラフなどから、自分たちの市で作られているれんこんに関心を持ち、学習問題をつくり、学習計画を立てることができる。	選択	・自分たちの市で作られているれんこんに関心をもって学習問題をつくり、調べる計画を立てようとしている。			○	ノート 発言		
			62・63	・れんこん畑の様子や道具、服装の写真などから、れんこん作りについて疑問に思ったことを出し合い、「見て調べること」と「聞いて調べること」に整理し、見学の計画を立てることができる。		・れんこん畑の見学にあたって、「見て調べること」と「聞いて調べること」に整理して見学の計画を立てようとしている。			○	ノート 発言		
			64・65	・れんこん畑を見学したことをもとに、れんこん作りの作業について順序よくまとめ、作業の工程や目的を理解することができる。		・農家の人がれんこんを作るためにおこなっている作業の工程や目的などを理解している。	○			ノート		
			66・67	・れんこんを育てるときに気を付けていることや工夫について、農家の人の話をもとに話し合い、考えを深めることができる。		・質のよいれんこんを作るためにおこなっている作業や工夫、努力などについて話し合い、考えをまとめている。		○		ノート		
			68・69	・大津区でれんこん作りがさかんな理由を、地理的条件と歴史的背景を関連づけて理解することができる。		・大津区の土地がれんこん作りに適した自然環境であることや、昔の人が種れんこんを伝えたことから、れんこん作りがさかんな理由を理解している。	○			ノート		
			70・71	・れんこんの出荷について調べたことを白地図にまとめ、わたしたちの生活や他地域とのつながりを理解することができる。		・れんこんの出荷についてわかったことを白地図にまとめ、わたしたちの生活や他地域とのつながりを理解している。	○			ノート		
			72・73	・これまでに調べた具体的な事実や、調べたことから考えたことなどを工夫して表現することで、れんこんの生産と自分たちのくらしとのつながりについて考えることができる。		・れんこんのよさを知らせるポスターづくりを通して、れんこんの生産とわたしたちのくらしとの関連を考え、表現している。		○		ノート		

月	単元	小単元	ページ	到達目標(活動目標)	時間	評価規準	主な評価の観点			評価の方法	既習事項で押さえるべき内容	上級学年・中学校との関連
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
9			74・75	・生産の仕事の学習や日常生活における買い物の経験を話し合い、地域には様々な店があることや、身近な人の買い物調べに意欲をもつことができる。	1	・どの店でどんな品物を買うかについて疑問をもち、友だちと話し合いながら調べ方を考えようとしている。			○	発言 ノート	【生活】 ・地域にある様々な施設やそこで働いている人に関心をもつこと	・ごみのしよりと活用(小4) ・わたしたちの食生活を支える食料生産 ・工業生産とわたしたちの暮らし(小5)
			76・77	・自分の家の人の買い物の仕方について調べた結果を、表にまとめ、特徴を読み取ることができる。	1	・買い物調べの結果を図にまとめ、家の人がどのような買い物をしているか特徴を読み取っている。	○			ノート 表		
			78～81	・スーパーマーケットの絵から、店の様子を読み取り、なぜそのような様子になっているのかを考え、考えたことや疑問に思ったことをもとにして、見学で調べたいことや調べ方を考えたりすることができる。	1	・スーパーマーケットの絵から、店の様子を読み取り、店の工夫を予想したり、疑問に思ったことを話し合ったりする活動を通して、何をどのように調べかを具体的に考え、整理している。		○		発言 ノート		
			82・83	・スーパーマーケットの売り場を見学して、多くの客を集めるためのスーパーマーケットの工夫についての情報を集めることができる。	1	・スーパーマーケットの売り場を見学して見つけたことや疑問に思ったことを、見学カードに書き、情報を集めている。	○			発言 ノート		
			84・85	・スーパーマーケットで働く人の話を聞いて必要な情報を集め、店で働く人の工夫について理解することができる。	2	・スーパーマーケットで働く人の話を聞いて必要な情報を集め、店で働く人の工夫について理解している。	○			ノート		
			86・87	・スーパーマーケットでの見学や聞き取りを通して、品物売る以外以外の店の取り組みや工夫について理解することができる。	1	・スーパーマーケットでの見学や聞き取りを通して、品物売る以外以外の店の取り組みや工夫について理解している。	○			ノート		
			88・89	・スーパーマーケットで売られている品物の産地について調べ、白地図にわかりやすく工夫してまとめることができる。	1	・スーパーマーケットで売られている品物の産地について調べ、白地図に工夫してまとめようとしている。			○	白地図 観察		
10			90～93	・たくさんの客が買い物に来る理由について、客の願いとスーパーマーケットで働く人の工夫とを関連付けて考えることができる。	1	・たくさんの客が買い物に来る理由とスーパーマーケットで働く人の工夫とを関連付けて考え、表現している。		○		ノート カード	【生活】 ・自分たちの地域に興味・関心をもつこと ・地域にある様々な施設やそこで働いている人に関心をもつこと ・地域で働いている人に関心をもつこと	・自然災害から人々を守る活動(小4) ・情報社会に生きるわたしたち(小5) ・わが国の政治のはたらき(小6)
			94・95	・火事や交通事故から人々の安全を守る消防署や警察署、地域の人の働きに関心を持ち、「きけんカード」に身近にある危険なことや場所を表現することができる。	1	・火事や交通施設などの写真を見て、地域の人々の安全なくらしを守る諸活動について関心をもとうとしている。			○	発言		
			96・97	・火事による人の被害や火事の件数などについて話し合うことで、消防署の仕組みや働く人々に関心を持ち、調べたいことを学習問題にして、学習計画を立てることができる。	1	・消防隊員だけでなく様々な機関が協力して消火活動にあたっている様子をとらえようとしている。			○	発言		
			98・99	・消防署を見学し、火事に素早く対応するための消防署の施設や設備の工夫、働く人々の仕事や働きを見つけ、調べることができる。	2	・見学や聞き取りをおこない、消防署の施設や設備の工夫、働く人々の仕事や働きを見つけ、見学カードやノートにまとめている。		○		カード ノート		
			100・101	・119番通報の仕組みを調べ、火事に素早く対応できる通信指令室の役割や関係機関との協力体制について考えることができる。	1	・119番の仕組みを調べることを通して、消防本部の通信指令室の役割や関係諸機関との連携・協力体制について考え、適切に表現している。		○		ノート		

月	単元	小単元	ページ	到達目標(活動目標)	時間	評価規準	主な評価の観点			評価の方法	既習事項で押さえるべき内容	上級学年・中学校との関連
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
11	安全なくらしを守る		102・103	・消防署で働く人々が日ごろから防災のためにおこなっている工夫や努力について考え、適切に表現することができる。	1	・消防署で働く人々が日ごろから防火・防災のためにおこなっている様々な仕事やその一つ一つの目的、仕事への思いを考え、適切に表現している。		○		ノート		
			104・105	・琵琶湖や高速道路などへの出動や救急活動の様子を、消防署の人の話や資料などで調べ、消防署の人々の仕事の工夫や努力を理解することができる。	1	・琵琶湖や高速道路などへの出動や救急活動に取り組む隊員の工夫や努力などについて、地図や「水難救助隊員のメール」を読み取り理解している。	○			発言ノート		
			106・107	・学校や地域の消防設備を調べ、その配置図をもとに話し合う活動を通して、学校や地域には、消防設備が整備されていることを理解することができる。	1	・学校や地域における火事に備えるための設備について調べ、白地図にまとめるとともに、その配置図からどのような備えがあるのかを読み取っている。	○			発言ノート		
			108・109	・地域の消防団の働きを調べ、地域を守ろうとしている消防団の人々の思いを考え、「さらに考えたい問題」を考えることができる。	1	・消防団の人々の地域を自分たちで守ろうとする思いをふまえ、自分たちにできることは何かを考えようとしている。			○	発言ノート		
			110・111	・今までの学習を振り返り、カードなどにまとめ、火事からくらしを守るためにできることを考え、話し合い、深めることができる。	1	・友だちの意見のよいところをもとに話し合うことで、自分の考えを見直し、深めた考えを適切にまとめている。		○		発言カード		
			112・113	・交通事故現場のイラストや写真資料から交通事故や事件に関心をもって学習問題をつくり、交通事故や事件をなくすために関わっている人々や機関の様子について調べる見通しをもつことができる。	1	・交通事故や事件をなくすために働いている人々に関心を持ち、安全なまちにするための働きや仕組みを調べる見通しをもとうとしている。			○	発言ノート	【生活】 ・地域にある様々な施設やそこで働いている人に関心をもつこと ・地域で働いている人に関心をもつこと	・自然災害から人々を守る活動(小4) ・情報社会に生きるわたしたち(小5) ・わが国の政治のはたらき(小6)
			114・115	・交通事故が起きたときの緊急に対応する110番の仕組みや人々の取り組みについて理解することができる。	1	・警察署の働きや110番の仕組みを理解し、安全なまちづくりへ向けた働きが身近にあることに気付いている。	○			発言ノート		
			116・117	・交番に勤める人の1日の仕事を調べ、警察署の人々が地域の安全を守るために様々な仕事をしていることを理解することができる。	1	・警察署の人々の仕事は、交通事故への対応だけでなく、広く地域住民のくらしの安心・安全を支えていることを理解している。	○			発言ノート		
			118・119	・身の周りの設備や施設を調べ、警察署や市役所、地域の人々が協力して、自分たちが安全に登下校ができるようにしていることを理解することができる。	1	・交通事故を防ぐために、警察署や市役所が協力して、様々な施設や設備を設置していることを理解している。	○			発言ノート		
			120・121	・地域の人々がおこなっている様々な活動を調べ、協力して安全なまちづくりをしていく大切さを考えることができる。	1	・地域の人々が協力して安全なまちづくりをしている目的やその思い、願いを考え、適切にまとめている。		○		ノート		
			122・123	・学習問題についてわかったことを関係図にまとめ、市の安全を守るために自分には何ができるか、「さらに考えたい問題」をつくることができる。	1	・市の安全を守る人々について関係図にまとめ、自分も地域住民の一人としてできることを考えようとしている。			○	ノート		
12		交通事故や事件から人びとを守る										

月	単元	小単元	ページ	到達目標(活動目標)	時間	評価規準	主な評価の観点			評価の方法	既習事項で押さえるべき内容	上級学年・中学校との関連
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
			124 ～ 127	・交通事故や事件からくらしを守るためにできることをポスターや標語などにまとめ、お互いの意見を聞き合い、話し合うことで、自分の考えを深めることができる。	1	・ポスターや標語などをつくり、自分も地域の安全を守ろうとする思いや自分の考えを表現している。		○		標語 ポスター		
1		導入	128 ・ 129	・昔と今の市の様子の写真を比較し、昔と今では建物や交通、人々の様子が異なっていることに興味をもつことができる。	1	・写真を比べて、建物や交通、人々の様子が昔と今では異なっていることに興味をもとうとしている。			○	発言	【生活】 ・自分たちの地域や自然に興味・関心をもつこと	・地域の伝統や文化と、先人のはたらき(小4) ・江戸の社会と文化・学問 ・アジア・太平洋に広がる戦争 ・新しい日本へのあゆみ(小6)
			130 ・ 131	・川越市立博物館を見学して、学芸員の話や聞き取り体験活動をししたりして、昔の市の様子や人々のくらしに関心をもつことができる。	1	・博物館を見学して、昔の市の様子や人々のくらしに関心をもとうとしている。			○	発言 ノート		
			132 ・ 133	・博物館を見学して出てきた疑問から学習問題をつくり、調べたいことや調べ方、まとめ方について見通しをもち、計画を立てることができる。	1	・博物館を見学して、学習問題をつくり、学習計画を立てようとしている。			○	発言 ノート		
			134 ・ 135	・今からおよそ130年前から80年前に鉄道が通ったところの川越市の交通や土地利用の様子を、写真や地図などで調べ、まとめることができる。	1	・鉄道が通ったところの交通や土地利用の様子について、博物館の人の話や地図などで調べ、変化の様子について考え、表現している。		○		ノート		
			136 ・ 137	・今からおよそ130年前から80年前に鉄道が通ったところの川越市の人口や公共施設の様子を、写真やグラフなどで調べることができる。	1	・鉄道が通ったところの人口や公共施設の様子について、写真やグラフなどで調べ、理解している。	○			ノート		
			138 ・ 139	・川越市に鉄道が通ったところの人々のくらしや道具、さらには、大災害の前後の家づくりについて、絵や写真、博物館の人の話などで調べ、まとめることができる。	1	・今からおよそ130年前の大災害があったところの市の様子や人々とくらしについて、絵や写真、博物館の人の話などで調べ、人々の生活がどのように変化したのか考え、表現している。		○		ノート		
		うつりかわる市とくらし	140 ・ 141	・今からおよそ50年前に高速道路ができたところの様子を調べ、工業団地ができたこと、バイパスや環状線などの道路が整備され、自動車の数も増えていることなどと市の発展とを関連付けて考えることができる。	1	・市に高速道路ができたところの交通や土地利用の様子について、地図や写真などで調べ、変化の様子について考え、表現している。		○		ノート		
			142 ・ 143	・市に高速道路ができたところのことを調べ、一つの大きな市ができたことや人口が大きく増えたこと、それに伴い現在の市役所や多くの公共施設が建てられたことについて理解することができる。	1	・市に高速道路ができたところ、一つの大きな市ができたことや人口が大きく増えたこと、市役所やたくさんの公共施設が建てられたことを理解している。	○			ノート		
			144 ・ 145	・市に高速道路ができたところの人々のくらしの様子を調べ、道具の移り変わりとともに、人々の生活の様子も移り変わったことを関連づけて考えることができる。	1	・今からおよそ70年前の人々とくらしについて、絵や写真、おばあさんの話などで調べ、人々の生活がどのように変化したのか考え、適切に表現している。		○		ノート		
			市のようにくらしのうつりかわり									

月	単元	小単元	ページ	到達目標(活動目標)	時間	評価規準	主な評価の観点			評価の方法	既習事項で押さえるべき内容	上級学年・中学校との関連
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
			146・147	・現在の川越市や人々のくらしの様子について調べ、よりゆたかで便利な川越市にしようとしていること、これから市の若い年代の人口が減っていく状況であることを理解することができる。	1	・交通や電化製品などの道具でくらしが便利になったこと、川越市がよりゆたかで便利なまちにしようとしていることを理解するとともに、これから市の若い年代の人口が減っていくという問題に気付いている。	○			ノート		
			148～151	・市の移り変わりについて、これまで調べてきたことを年表にまとめる活動を通して、川越市や川越市の人々のくらしが、交通の発達や土地利用、人口、公共施設、道具の変化などによって発展してきたことを考えることができる。	1	・交通の広がりや土地利用、人口、公共施設、生活の道具の変化によって、現在の市の様子や人々の生活がどのように変化したのか考え、関連付けて表現している。		○		年表		
		3	152・153	・少子化・高齢化の課題をもつ川越市や地域の人々は、市民のくらしの向上や川越市の発展のために様々な取り組みをしていることを理解することができる。	1	・市民のくらしの向上や川越市の発展のために、川越市や地域の人々が様々な取り組みをしていることを理解している。	○			ノート		
			154～157	・自分たちの住んでいる市が抱える課題を解決し、よりくらしやすい市にするためにどのようなことが必要なのか考え、地域の一員として、自分たちにできることはないか話し合い、提案することができる。	1	・これまで学習したことや「さらに考えたい問題」についての自分の考えをまとめ、話し合いを通して自分の考えを深めたり広げたりしようとしている。			○	発言 ノート		
		テスト		・テストをする。	6	・既習の内容を理解している。	○	○		ペーパー テスト		

第4学年 社会科年間指導計画

月	単元	小単元	ページ	到達目標(活動目標)	時間	評価規準	主な評価の観点			評価の方法	既習事項として押さえるべき内容
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
4	わたしたちの県	わたしたちの県	日本 の 4・7 都道府県を 旅してみよう	・都道府県の文化財や祭り、食べ物、工業製品などの特色を話し合い、47都道府県の位置や名前を調べ、地図に書くことができる。	2	・都道府県の文化財や祭り、食べ物、工業製品などを話し合い、意欲的に47都道府県の位置や名前を調べ、地図に書きこんでいる。			○	白地図 教科書	・位置を4方位で表現できること ・自分たちの地域の土地利用が地図からわかること ・自分たちの地域と市との位置関係が分かること ・自分たちの地域や市の交通網が分かること (小3)
			導入	・日本の都道府県と自分たちが住んでいる岡山県(都・道・府)に関心をもち、岡山県(都・道・府)の特色について調べていこうとする意欲をもつことができる。	1	・日本の都道府県名について話し合うことにより、自分たちの住んでいる岡山県(都・道・府)に関心をもち、その特色を調べようとしている。			○	発言 ノート	学習指導要領の目標(1)に 都道府県 の地理地域の人々の健を支える働きや地域の安全を守動、地域の伝統の発展に尽くしなどについて、の関連を踏まえともに、調査活各種の具体的資必要な情報を誦能を身に付けるる。」と示されカリキュラム沿って作成して山県」と記載し
			16・17	・岡山県の地図を見ながら、県や市について関心をもち、県の様子にかかわる学習問題をつくり、学習計画を立てることができる。	1	・岡山県の地図を調べることにより、県や市について関心をもち、学習問題をつくり、学習計画を立てている。			○	発言 ノート	
			18・19	・鳥瞰図や地形図をもとに、自分たちが住んでいる岡山県(都・道・府)の地形の様子を調べて、その特色を考えることができる。	1	・地形の高低を岡山県の北部・中央部・南部という視点で比較し、その特色を考え、適切に表現している。		○		発言 ノート	
			20・21	・土地利用図と写真をもとに、自分たちが住んでいる岡山県(都・道・府)の土地利用の様子を調べ、その特色を考えることができる。	1	・土地利用の様子と地形とを関連付けて、山地・高原・平野という視点で土地利用の特色を考え、適切に表現している。		○		発言 ノート	
			22・23	・岡山県(都・道・府)の道路や鉄道などの交通の様子と主な都市の位置について調べ、県内の交通と主な都市の位置について関わりを考えることができる。	1	・岡山県内の交通の様子と人口の分布とを関連付けて、交通の広がりについて考え、適切に表現している。		○		発言 ノート	
			24・25	・岡山県(都・道・府)の主な特産物や産業の様子について、パンフレットなどの資料をもとに調べ、県全体に見られる主な産業の概要や分布の特色を理解することができる。	1	・岡山県(都・道・府)全体に見られる主な産業の概要や分布を理解している。	○			発言 ノート	
			26・29	・岡山県(都・道・府)の特色について、白地図にまとめ、学習問題について考えたことを話し合うことができる。	1	・これまでの学習を振り返り、岡山県の特色について、白地図に表現している。		○		発言 白地図	
			導入	・わたしたちの生活のなかで、水や電気の確保やごみの処理等が、健康な日々を送るために関わりがあることに気づき、人々の健康なくらしを支える仕事を学習していこうとする意欲をもつことができる。	1	自分たちの健康なくらしや生活環境を守るごみ処理、水や電気の確保について関心をもち、人々の健康なくらしを支える仕事について、意欲的に調べようとしている。			○	発言 ノート	・スーパーなどではリサイクルに取り組んでいること ・くらしを豊かにする施設があること (小3)

月	単元	小単元	ページ	到達目標(活動目標)	時間	評価規準	主な評価の観点			評価の方法	既習事項として押さえるべき内容
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
6	健康なくらしを守る仕事	ごみのしやりと利用	32・33	・テレビで見たごみや家庭から出るごみについて調べ、ごみの出し方などを話し合うことにより、ごみ処理に対する関心を高めることができる。	1	・自分たちのくらしから出るごみについて関心を持ち、意欲的に調べたり、話し合ったりしている。			○	発言	
			34・35	・大分市のごみの種類や量、出し方について話し合うことにより、ごみの処理について、学習問題をつくり、予想したり、学習計画を立てたりすることができる。	1	・大分市のごみの種類や量、出し方について調べ、ごみの処理について、学習問題をつくり、学習計画を立てようとしている。			○	ノート	
			36・37	・ごみステーションの様子を調べたり、ごみ収集をしている人などから話を聞いたりすることで、ごみの収集方法や、そこに携わる人々の苦労や工夫について理解することができる。	2	・ごみ収集車のごみ収集の様子を観察や仕事に携わる人の話から、収集する人の苦労や工夫について理解している。	○			ノート	
			38・39	・集められたごみがどのように処理されるのか、清掃工場の人の話をもとに調べ、協力してごみの処理を行っていることに気づき、表現することができる。	2	・図やグラフ、係の人の話から、ごみ処理の工夫を考え、自分の言葉で表現している。		○		ノート	
			40・41	・清掃工場で行われている作業を調べることを通して、燃えるごみが適正に処理されていることや、清掃工場働く人の工夫や努力を理解することができる。	1	・燃えるごみが適正に処理されていることについて、清掃工場働く人の工夫や努力を理解し、まとめている。	○			ノート	
			42・43	・リサイクルプラザの見学などから、処理の様々な工夫を調べ、二つのごみ処理施設の見学からわかったことや考えたことを話し合うことができる。	1	・二つのごみ処理施設からわかったことや考えたことを、適切にノートにまとめ、話し合っている。		○		発言 ノート	
			44・45	・うめ立て場の働きや問題点を調べ、わかったことをカードにまとめ、学習問題について話し合い、さらに考えたい問題を考えることができる。	1	・うめ立て場の働きや問題点を調べ、わかったことや考えたことを適切にカードなどに表現している。		○		カード ノート	
			46・47	・大分県の取り組みを調べることを通して、ごみを減らす工夫やうめ立て場を長く使う工夫について、県や市、地域が協力していることを理解することができる。	1	・大分県が行っているごみの減量やうめ立て場の延命の取り組みや、県や市、地域が協力していることを理解し、適切にまとめている。	○			ノート	
			48～49	・これまでの学習を振り返り、自分にもできるごみを減らす取り組みを考え、発表し、質問や感想を話し合ったりして、自分の意見を見直し、深め合うことができる。	2	・二人の発表を聞き、質問や感想を述べ、深め合い、自分にもできるごみを減らす取り組みを考えている。			○	発言 ノート	
			54・55	・家庭や学校生活のなかで、大量に水を使用していることから、くらしに欠かせない身近な水道に関心をもつことができる。	1	・家庭や学校生活での水の使い方を調べ、くらしに欠かせない水を大量に使用していることから、身近な水道に関心をもとうとしている。			○	発言	・人々のくらしが時代と共にかわってきたこと ・これからのまちづくりについて自分なりの思いをもつこと ・地域の自然や文化

月	単元	小単元	ページ	到達目標(活動目標)	時間	評価規準	主な評価の観点			評価の方法	既習事項として押さえるべき内容
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
7		くらしをささえる水	56・57	・大阪府の水の使い方や給水量について話し合い、わたしたちが使う水がどこからくるのかについて、学習問題をつくり、予想を出し合い学習計画を立てることができる。	1	・大阪府に住む人々が使う水の量の変化の様子から、水道について、学習問題をつくり予想を話し合い、学習計画を立てようとしている。			○	ノート	・地域の自然や土地の利用がわかること(小3)
			58・59	・家庭や学校で使われている水は、水源からダムや浄水場、配水池などの施設を経由して送られてくることを、絵地図や写真から読み取り、浄水場の見学の計画を立てることができる。	1	・家庭や学校で使われている水は浄水場から届けられていることを絵地図や写真から読み取り、浄水場の働きについて、見学への意欲を高めている。			○	発言 ノート	
			60・61	・浄水場では、人々が飲料水を安心して、必要な量をいつでも使えるように高度な技術を活用した仕組みがつけられていることや、働いている人の願いと工夫についても理解することができる。	2	・安心して使える水をつくる浄水場の仕組みや、そこで働く人々の願いや工夫について理解している。	○			ノート	
			62・63	・浄水場で働く人々は、安全・安心な飲料水を、関係機関と連携しながら確実に家庭や学校へ送るために様々な工夫や努力をしていることについて理解することができる。	1	・安全・安心な飲料水を、確実に家庭や学校へ送るための浄水場で働く人々の工夫や努力を理解している。	○			ノート	
			64・65	・これまでの学習問題を振り返り、学習問題についての自分の考えをノートにまとめ話し合い、かけがえのない安心・安全な水について考えを深め、さらに考えたい問題を考えることができる。	1	・学習問題について、自分の考えをまとめ話し合うことにより、安心・安全なかけがえのない水について考えを深めている。		○		ノート	
			66・67	・地震などで安全な水が使えなくなることや、琵琶湖や天野川で自分たちが行っていることを調べ話し合うことができる。	1	・安全な水が使えなくなった時の写真や、琵琶湖や天野川の奉仕活動の写真から、安全な水の大切さを理解している。	○			ノート	
			68・69	・水と森林との関係について調べ、限りある水を守るためには森林環境を守っていくことが大切であることを理解し、大阪府の給水量のうつり変わりのグラフから給水量が減ってきていることを読み取ることができる。	1	・「緑のダムのしくみ」や「水のじゅんかん」の図を活用して、水を守るためには、森林環境の保全が重要であることを理解している。	○			ノート	
9		導入	70・71	・限られた水を大切に使うために、節水や水の再利用について、自分にできることを考えたり判断したりして、水の大切さをうたえるカードをつくり、聞くことを大切にしたい深め合いをして、自分の意見を見直し、深めることができる。	1	・大阪府の給水量のうつり変わりのグラフから給水量が減ってきているわけを調べ、限られた水を大切に使うために自分にできることを考えたり判断したりして、カードなどに表現している。		○		カード	
			80・81	・過去に起こった災害が大きな被害を与えていることから、自然災害に関心をもち、東京都で起こった自然災害について調べていこうとする意欲をもつことができる。	1	・東京都で過去に発生した自然災害を調べ、風水害について問いをもち、追究する意欲をもっている。			○	発言 ノート	・安全なくらしを守るはたらきについて考えること ・地域の公共物の位置が分かること(小3)

月	単元	小単元	ページ	到達目標(活動目標)	時間	評価規準	主な評価の観点			評価の方法	既習事項として押さえるべき内容
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
10	自然災害から人々を守る活動	自然災害から命を守る(選択)	82・83	・東京都をおそった自然災害のうち、風水害の被害が多いことに気づき、災害時の対処や被害にあわれた人の話から、風水害について、学習問題を考え、詳しく調べようとする意欲を高めることができる。	1	・東京都をおそった自然災害のうち風水害の被害が多いことや、災害時の対処を調べ、地域の風水害について詳しく調べようとする意欲を高めている。			○	発言ノート	
			84・85	・風水害で被害に合わなかった場所や学校の近くを流れる妙正寺川を見学したり、風水害の様子を調べたりすることで、風水害を防ぐ工夫や努力について学習問題を考え、予想し、学習計画を立てることができる。	2	・自分たちの学校の近くにある風水害が起こったことのある妙正寺川などを見学することを通して、学習問題を考え、予想し、学習計画を立てることができる。			○	発言ノート	
			86・87	・風水害を防ぐための東京都の施設を調べ、風水害を防ぐためにつくられた地下調節池の働きについて理解することができる。	1	・風水害を防ぐ地下調節池の役割を、施設を管理する人の話から理解している。	○			発言ノート	
			88・89	・2019年の台風19号を例に、市役所や消防署、警察署の人々の取り組みを調べ、自然災害が起きたときには、人々の命を守るために、多くの人々の働きがあることを理解することができる。	1	・市役所や消防署、警察署の人の話から、自然災害が起きたときには、人々の命を守るために、多くの人々の働きがあることを理解している。	○			ノート インタビューメモ	
			90・91	・気象庁や東京都、地方公共団体などから出される防災情報について調べ、どのように役立てていくのかについて考えることができる。	1	・気象庁や東京都などの地方公共団体から出される防災情報について調べ、どのように役立てていくのかについて考えている。		○		ノート	
			92・93	・災害にそなえる避難所運営訓練の取り組みを調べたり、地域の防災部長さんの話を聞いたりして、学校が避難所に指定されていることが多いことに気づくことができる。	1	・東京都や杉並区、地域の防災組織での災害に備える取り組みについて調べ、どのように参加していくのかについて考えている。		○		ノート	
			94・95	・これまでの学習を振り返り、風水害対策の関係図をつくり、学習したことを防災部長さんへの手紙に書き、学習問題についての自分の考えをワークシートにまとめるとともに、さらに考えたい問題を考えることができる。	1	・災害対策基本法をもとに取り組みされている東京都の風水害に関する災害対策について関係図をつくり理解し、学習問題についての自分の意見をもとに新たな問いを考えている。	○			ワークシート	
			96・97	・防災館で風水害の体験をしたり、話を聞いたりして、自分たちの安全を守るためにすべきことを理解し、自分たちにできることを考えることができる。	1	・風水害の体験をしたり、話を聞いたりして、自分たちの安全を守るためにすべきことを理解している。	○			発言ノート	
			98・99	・自分の考えをスライドにまとめ、発表し、相手の意見をよく聞き、みんなで、確かめ・質問・感想を話し合い、深め合うことができる。	2	・二人の発表や話し手の意見をよく聞き、自分の意見を見直し、自分の考えを深めている。		○		発言ノート	

月	単元	小単元	ページ	到達目標(活動目標)	時間	評価規準	主な評価の観点			評価の方法	既習事項として押さえるべき内容
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
	地震による災害(選択)		100・101	・阪神・淡路大震災での人々のくらしの様子を調べ、学習問題をつくり、予想し、学習計画を立てて、被害に合った人々のくらしを守る取り組みを意欲的に調べることができる。	選択	・地震が起きた後の人々の困難なくらしや、それを守る取り組みについて意欲的に調べている。			○	発言ノート	
			102・103	・阪神・淡路大震災発生後の市町村の復旧や復興への取り組みを調べるとともに、日ごろから防災意識を高めることの大切さに気付くことができる。		・阪神・淡路大震災発生後の市町村の対応を調べるとともに、日ごろから防災意識を高めることの大切さに気付いている。		○		発言ノート	
			104・105	・大きな地震への備えについて、本やインターネットで調べたり、防災福祉コミュニティの話を讀んだりして、正しい情報を受け取ることや自分たちの地域は自分たちで守る意識が必要であることに気付くことができる。		・正しい情報を受け取ることや自分たちの地域は自分たちで守る意識が必要であることに気付いている。		○		発言ノート	
	津波による災害(選択)		106・107	・東日本大震災のことをきっかけに、津波について知っていることを出し合い、資料を読み取ることから、南海トラフ巨大地震や津波について関心をもつことができる。	選択	・南海トラフ巨大地震で予想される被害の状況から、国や都道府県・市町村の取り組みや先人の働きについて関心をもち、本単元の学習の見通しをもっている。			○	発言ノート	
			108・109	・津波の対策を通して、浜口梧陵のしてきたことを調べ、話し合うなかで、浜口梧陵の人物像について考え、自分の考えを適切に表現することができる。		・調べたことから、浜口梧陵の働きや苦心、後世の人たちに託そうとしたものを考え、それに対する自分の考えを適切に表現している。		○		発言ノート	
			110・111	・県の防災担当の人の話などをもとに、県が進める津波対策について調べ、津波に対して県がどのような対策をしているかや、自分たちがどんな備えをすればよいかについて考え、理解することができる。		・県が進める津波対策について調べ、津波に対して県がどのような対策をしているかや、自分たちがどんな備えをすればよいかについて考え、理解している。	○			発言ノート	
	わたしたちのま	導入	120・121	・県内の古くから残る祭りなどの年中行事や建物、地域の発展に尽くした先人について、知っていることや教科書の写真資料などを活用して調べ、調べる意欲と関心をもつことができる。	1	・地域の歴史や文化、産業などの発展に尽くした人々の働きに関心をもとうとしている。			○	発言ノート	
			122・123	・祭りなどの年中行事を展示している博物館や資料館を見学し、学芸員の話や聞きなどして、長崎県(都・道・府)内の祭りに関して興味・関心を高めることができる。	1	・博物館や資料館を見学し、学芸員の話や聞きなどして、長崎県(都・道・府)内の祭りに関して興味・関心を高め、意欲的に調べようとしている。			○	発言ノート	
			124・125	・興味をもった長崎くんちについてもっと知りたいという思いから、その祭りに関する情報を集めて学習問題を考え、予想や学習計画を立てることができる。	1	・興味をもった祭りに関する情報を集め、時期や練習の仕方、道具などについての確に読み取り、学習問題を考えるとともに、予想や学習計画を立てている。	○			発言ノート	
			126・127	・祭りに関わる人たちに、どのような思いをもっているかをたずねることを通して、祭りに参加する人たちの気持ちを理解することができる。	2	・祭りに対する気持ちや苦労などを読み取り、メモに簡潔にまとめたり、自分が調べたいことを書き足したりしている。	○			発言ノート	

月	単元	小単元	ページ	到達目標(活動目標)	時間	評価規準	主な評価の観点			評価の方法	既習事項として押さえるべき内容
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
11	地いきの伝統や文化と、先人のほたらき	ゆちに伝わるもの	128・129	・祭りに関わっている人たちはどのような思いがあるのか、電話の内容などから読み取るとともに、これまで調べてきたことと合わせて、新たな課題を見出すことができる。	1	・祭りに関わる人たちの思いと、これまで調べてきたことを合わせて考え、新たな課題を見出すとともに、自分なりにその課題を表現している。		○		発言 ノート	
			130・131	・新たな課題に関する取り組みを調べることを通して、今、自分にできることを考えたり、友だちの意見を聞いたりして、祭りに対する興味・関心を高めることができる。	2	・新たな課題に対して真摯に向き合い、解決策を考えることを通して、伝統芸能に対する関心・意欲を高めている。			○	発言 ノート	
			132・133	・長崎県内の観光マップやこれに関連する写真を調べ、県内には古い建物が多く残されていることに気づき、その取り組みを調べることができる。	1	・長崎県内には古い建造物があることに気付くとともに、古い建物を残すためにされている取り組みをまとめている。		○		発言 カード	
		原野に水を引く	134・135	・那須野原の鳥瞰図を見て、1890年ごろの土地の様子や、疏水の施設について調べ、気づいたことや疑問に思ったことを話し合うことができる。	1	・那須野原の鳥瞰図を見て、気づいたことや疑問に思ったことを想像し話し合っている。		○		発言	・地域の土地の様子が地図から分かること ・古い道具やそれを使っていたころのくらしについて調べること
			136・137	・那須野原の原野の開墾や人々が水不足で苦労してきたことについて、絵図や写真資料などで調べ、学習問題を考え、予想を話し合うことができる。	1	・自らの学習問題やクラスの学習問題をもとに、調べたいことや調べ方について学習計画を立てようとしている。			○	発言 ノート	・人々は豊かなくらしを願って、様々な工夫をしていること(小3)
			138・139	・取水口や蛇尾川のふせこしなどの施設を見学し、施設周辺の土地や蛇尾川の様子を観察して、水もちのよくない那須野原の特徴を理解することができる。	1	・取水口や蛇尾川のふせこしの石組みなど、那須疏水の施設を見学するとともに、施設周辺の土地や蛇尾川の様子を観察している。	○			ノート	
			140・141	・印南と矢板が中心となり、飲み水用の水路の計画と開削をし、その後、新しく水田に活用する水路の計画を国に認めさせたことを、本文や年表などから読み取ることができる。	2	・印南と矢板の二人が中心となり、飲み水用の水路の計画と開削、そして、新しく水田に活用する水路の計画を国に認めさせたことを理解している。	○			発言 ノート	
			142・143	・那須疏水の施設の工事について、苦労や工夫を予想し、ずい道工事の苦労や工夫について、想像図や地図などの資料を活用し、調べることができる。	1	・那須疏水の施設の一つであるずい道工事について、想像図や地図などの資料を活用し、苦労や工夫を調べている。	○			ノート	
			144・145	・ふせこしや用水路の工事の苦労や工夫について、断面図や想像図、写真などを調べ、工事の工夫等を理解することができる。	1	・那須疏水の施設であるふせこしや用水路の工事の苦労や工夫について読み取り、理解している。	○			発言 ノート	
			146・147	・那須疏水ができてからの那須野原の人々のくらしの様子について、土地利用図や関係する人の話、グラフ資料などで調べ、那須野原の土地の様子や人々のくらしの変化の様子を考えることができる。	1	・那須地方の土地利用図やグラフ資料などを調べ、那須疏水ができてからの那須野原の人々のくらしの変化について理解している。	○			発言 ノート	
12											

月	単元	小単元	ページ	到達目標(活動目標)	時間	評価規準	主な評価の観点			評価の方法	既習事項として押さえるべき内容
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
			148・149	・那須野原全体の水問題はどのようになったかを予想し、国の総合開発について調べて、深山ダムなどの建設が行われ那須疏水の改修が進んだことを理解し、まとめることができる。	1	・那須疏水の北部の開発から、深山ダムの建設により用水がいきなり、牧草地などが増えていることに気づき、用水を利用する地域が多くなったことを理解している。	○			ノート	
			150・151	・今までの学習を振り返り、学習問題について自分の考えをまとめ、深め合い、紙しぱいにまとめることができる。	2	・友だちの意見のよいところを聞き、自分の考えを見直し、話し合い深め合っている。		○		発言作品	
1		導入	170・171	・自分たちが住んでいる岡山県(都・道・府)の特色に関心を持ち、学習の見通しをもつことができる。	1	・自分たちの住んでいる岡山県の特色に関心を持ち、意欲的に調べようとしている。			○	発言	・人々は豊かなくらしを願って、様々な工夫をしていること(小3)
		伝統的な工業がさかんな地域	172・173	・備前焼がさかんにつくられている地域の写真や地図を活用して調べ、焼き物づくりがさかんな備前市について理解し、学習問題を考え、学習計画を立てることができる。	1	・会館の人の話を調べ、焼き物づくりがさかんな備前市について理解し、学習問題を考え、学習計画を立てている。			○	発言 ノート	
			174・175	・備前焼の生産工程の写真や伊勢崎淳さんの話から、備前焼をつくる人の工夫や願いを調べ、備前焼をつくる人は昔から受け継いできた技術を生かして作品をつくり、新しい備前焼をつくる努力をしていることを理解することができる。	1	・備前焼をつくる人は、昔から受け継いできた技術を生かして作品をつくっていることを理解している。	○			発言 ノート	
			176・177	・備前焼のすばらしさを広めるために、備前焼をつくる人や備前市役所の取り組みの意図を考え話し合うを通して、備前焼のすばらしさを広めるために市全体が協力して備前焼を守り、生かす取り組みをしていることを理解することができる。	1	・備前焼のすばらしさを広めるために、備前市全体が協力して備前焼を守り、生かす取り組みをしていることを理解している。	○			発言 ノート	
			178・179	・備前市の観光客を増やす取り組みを調べ、学習問題を想起しながら、備前焼をつくる人や、市、地域の人の取り組みについて、自分の考えを発表し合うことができる。	2	・備前市の観光客を増やす取り組みについて調べ、学習問題をもとに、これまでの学習を振り返るとともに、自分の考えをさらに深めている。		○		発言 ノート	
			180・181	・真庭市の気温や降雨量の自然的環境について話し合い、真庭市の自然環境や産業に関心を持ち、学習問題を考え、予想や学習計画を立てることができる。	1	・豊かな自然を生かしている真庭市の人々のくらしについて、学習問題や予想を考えようとしている。			○	発言 ノート	・自分たちの市で生産されている農作物の分布が分かること ・自然の力を生かした農作物づくりが行われていること
2	わたしたちの住みか	土地の特色をみ	182・183	・蒜山高原のジャージー牛の飼育や観光について調べ、蒜山高原の人々が地形や気候の特徴を生かして特産物をつくったり、季節に合ったイベントを企画したりしていることを理解することができる。	2	・蒜山高原の特産物や観光への取り組みについて、必要な情報を集め調べている。	○			発言 ノート	・農作物を育てたり、出荷したり人々は努力や工夫をしていること(小3)

月	単元	小単元	ページ	到達目標(活動目標)	時間	評価規準	主な評価の観点			評価の方法	既習事項として押さえるべき内容
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
3	んでいる県	土かした地いき	184・185	・真庭市南部で行われている取り組みを調べ、これまで、真庭市の人々が、人工林で育てたり加工したりした木材を、できるだけ無駄なく利用しようとしていることを理解することができる。	1	・真庭市の人々が、人工林で育てたり加工したりした木材を、できるだけ無駄なく利用しようとしていることを理解している。	○			発言 ノート	
			186・187	・真庭市の人々がめざすSDGsに沿ったまちづくりの取り組みを調べ、これまでの学習を振り返り、自分たちの意見を話し合い、真庭市のめざすまちづくりを図にまとめることができる。	2	・様々な取り組みと観光や林業などの産業の発展とを関連づけて考え、真庭市の人々の取り組みの意味を図に表している。		○		図	
		世界とつながるちいき	192・193	・倉敷市でおこなわれる外国の人が参加するイベントや美観地区の外国人観光客の写真を見て、倉敷市に住む外国の人について関心をもち、学習問題を考え、予想や学習計画を立てることができる。	1	・倉敷市では外国とどのようにつながっているのか、自分の問いをもち、進んで学習問題を考え、予想や学習計画を立てている。			○	発言 ノート	・これからのまちづくりについて自分なりの思いをもつこと(小3)
			194・195	・倉敷市に住む外国の人の人数や、倉敷市に住む留学生の人の目的や願いを調べるとともに、留学生や働く外国の人が増えている理由を理解することができる。	1	・倉敷市に住む留学生の人の思いや、倉敷市に留学生が増えている理由を理解している。	○			発言 ノート	
			196・197	・倉敷市に住む外国の人たちの生活を支えるための取り組みについて調べ、倉敷市でくらす外国の人が活躍できる活動をめざしていることを理解することができる。	1	・倉敷市がめざす多文化共生のまちづくりや外国の人が活躍できる活動について理解している。	○			発言 ノート	
			198・199	・岡山県や県内の市町村の国際交流や友好関係を結んでいる国を調べ、市役所の取り組みや岡山県の他国との関わりを調べ、岡山県や倉敷市と外国との関わりに関心をもち、岡山県や倉敷市と外国との関わりについて意欲的に調べている。	2	・外国との関わりについて関心をもち、交流関係を結んでいる国との交流について意欲的に調べている。			○	発言 ノート	
			200・201	・これまでの学習を振り返り、岡山県の特徴について話し合い、その特徴をPRするカルタやリーフレットなどにまとめることができる。	1	・岡山県の特徴をPRするカルタやリーフレットなどに、適切に表現している。		○		カルタ リーフレット	
				・テストをする。	8	・既習の内容を理解している。	○	○		ペーパー テスト	

上級学年・中学校との関連
・日本の国土と人々の暮らし ・国土の環境を守る (小5)
解説第4学年 ：「 自分たちの 環境の特色、 健康と生活環境 や自然災害から を守るための諸活 動と文化や地域 の先人の働き 人々の生活と して理解すると は、地図帳や 資料を通して、 調べまとめる技 術のようにす ていている。 は、教科書に いるが、「岡 ていても「広
・国土の環境を守る (小5) ・わが国の政治の はたらき (小6)

上級学年・中学校
との関連

・国土の環境を守る
(小5)
・わが国の政治の
はたらき
(小6)

上級学年・中学校
との関連

・国土の環境を守る
(小5)
・わが国の政治の
はたらき
(小6)

上級学年・中学校
との関連

上級学年・中学校
との関連

・さまざまな土地の
暮らし
(小5)

上級学年・中学校
との関連

・わたしたちの食生活を支える食料生産
(小5)
・江戸の社会と文化・学問
(小6)

上級学年・中学校
との関連

・工業生産とわたし
たちの暮らし
(小5)

・わたしたちの食生
活を支える食料生
産
・国土の環境を守る
(小5)
・世界のなかの日
本とわたしたち
(小6)

上級学年・中学校 との関連
・わが国の政治の はたらき ・世界のなかの日 本とわたしたち (小6)

第5学年 社会科年間指導計画

月	単元	小単元	ページ	到達目標(活動目標)	時間	評価規準	主な評価の観点			評価の方法	既習事項で押さえるべき内容	上級学年・中学校との関連
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
4		大単元の導入	8・9	・宇宙から見た地球の写真を見て、気づいたことや疑問に思ったことを話し合い、大陸や海洋、日本の国土について調べていこうとする意欲をもつことができる。		・宇宙から見た地球の写真を見て話し合うことにより、大陸や海洋の広さ、日本の位置に関心を持ち、意欲的に追究しようとしている。			○	観察	・位置を八方位で表現できること ・広島県の位置が日本列島の中で分かること ・自分たちの地域は他の地域とつながりがあること ・日本のおおよその形が分かること(小4)	【地理】 ・地球の姿を見てみよう ・日本の位置を調べよう ・地球儀と世界地図とを比べてみよう ・地球上の位置を表そう ・世界の国々と地域区分 ・主な国々の国名と位置 ・「日本の略地図のえがき方」 ・日本の位置を調べよう ・「沖ノ島島の護岸工事」 ・「日本列島を構成する島々」 【歴史】 ・「日本の領土をめぐる問題とその歴史」
			10～13	・地球のすがたを調べること、地球には、三大洋、六大陸があることを理解するとともに、世界の国々や日本の国土について、学習問題をつくり、予想を出し合い学習計画を立てることができる。	1	・世界の国々や日本の国土について、学習問題をつくり、予想を出し合い学習計画を立てようとしている。			○	観察ノート		
			14(20)15	・地球儀や地図帳を使って、主な国の位置と国旗について調べ、緯度や経度、大陸名や海洋名、日本からの方位や距離などを使い、説明することができる。	1	・主な国の位置と国旗、日本との位置関係を調べ、白地図やタブレットにまとめ、説明している。	○			白地図 タブレット		
			16・17	・地球儀や地図帳を使って、日本の領土や範囲を調べ、日本の国土の位置と領土、近隣諸国との位置関係について理解することができる。	1	・日本の国土の位置、海洋に囲まれ多数の島からなる国土の構成や領土、近隣諸国との位置関係について、理解している。	○			ノート		
			18・19	・日本の領土には、解決しなければならない問題があることを理解するとともに、日本の国土の特色について、自分の考えをまとめることができる。	1	・海洋に囲まれ、解決しなければならない問題もある我が国の国土の特色を考え、適切に表現している。		○		観察ノート		
		日本の地形や気候	20(20)21	・四季の移り変わりや、特色ある地形の写真を調べることにより、様子が違うのは、地形や気候に関わりがあることに気づき、学習問題をつくり、予想を出し合い学習計画を立てることができる。	1	・日本の地形や気候に関わる疑問を出し合い、学習問題をつくり、学習計画を立てようとしている。			○	観察ノート	・位置を八方位で表現できること ・広島県の位置が日本列島の中で分かること ・日本のおおよその形が分かること(小4)	
			22(20)23	・日本の地形を地図や写真などで調べ、日本の地形の特色や山脈、高原、盆地などのいろいろな地形、火山の影響などについて理解することができる。	1	・日本は山がちの地形で中部地方に高い山があることや、日本の川は短く流れが急で、大きな川の下流に平野が広がっていることを理解している。	○			観察ノート		
			24(20)25	・つゆと台風について調べ、それらが人々のくらしに様々な影響を及ぼしていることを考えることができる。	1	・四季の変化のほか、つゆや台風の影響などの日本の気候の特色と人々のくらしを関連付けて考え、表現している。		○		ノート		
			26(20)27	・北海道と沖縄の冬の気温差を示す写真やグラフから、日本の気候を調べ、日本は地域によって気候が違うことを理解することができる。	1	・日本の気候は、気温や降水量の変化をもとに、六つの気候区分に分けられることを理解している。	○			ノート		
			28(20)29	・気候の違いは、季節風も関係していることに気付くとともに、これまでの学習を振り返り、自分の考えをまとめ、話し合うことで、さらに考えを深めたり、新たな疑問を生みだしたりすることができる。	1	・これまでの学習を振り返り、自分の考えをまとめ、話し合うことで、さらに考えを深めたり、新たな疑問を生みだしたりしている。			○	観察ノート		
5												

月	単元	小単元	ページ	到達目標(活動目標)	時間	評価規準	主な評価の観点			評価の方法	既習事項で押さえるべき内容	上級学年・中学校との関連
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
日本	の国土と人々の暮らし	寒い土地の暮らしー北海道旭川市ー	さまざまな土地の暮らし	・日本各地の様子と自分の住んでいる地域とを比べ、気候や地形が、そこでのくらしや産業にどのように関連しているのかについて、学習問題をつくり、予想を出し合い学習計画を立てることができる。	1	・4枚の写真と自分たちの住んでいる地域を比べることなどにより、地形や気候の違いがくらしや産業に関係していることについて、学習問題をつくり、予想を出し合い学習計画を立てようとしている。			○	観察ノート	・土地利用図が読めること ・地域の地形や気候を生かして産業が行なわれていること ・農業や伝統工芸には、地域の特徴を生かしたものがあること(小4) ・調べた地域の特徴を自分なりにまとめること(小3・小4)	【地理】 ・寒暖の差が激しい土地に暮らす人々 ・「雨温図の読み取り方」 ・世界から見た日本の気候 ・「台風と人々の生活」 ・自然災害と防災への取り組み ・日本の農林水産業 ・常夏の島で暮らす人々 ・「雨温図の読み取り方」 ・世界から見た日本の気候 ・「台風と人々の生活」 ・自然災害と防災への取り組み ・多様な環境問題と環境保全の取り組み ・「沖縄の土地利用」 ・「屋久島の自然と人々の生活」 ・北海道地方の生活の舞台 ・「克雪、利雪、楽雪」 ・北海道地方の人々の営み ・自然の制約に適応する人々の工夫 ・「植林による漁業の活性化」 ・自然の制約や社会の変化を乗り越える ・自然の特色を生かした観光産業 ・「アイヌの人たちと多文化共生」 【歴史】 ・東アジアとの交流 ・「東アジア世界の朝貢体制と琉球王国」 ・鎖国下の対外政策 ・国境と領土の確定 ・「戦争を記憶し、平和を発信する沖縄」 ・「北海道とアイヌ民族の歴史」 ・緊張緩和と日本外交 【公民】 ・暮らしに生きる伝統文化
			あたたかい沖縄県に住む人々の暮らし(選択)	・自分たちが住んでいる地域と沖縄県とを比べることにより、沖縄県は冬が特に暖かく、つゆや台風の影響で降水量が多いことを、地図やグラフなどの資料から読み取ることができる。	1	・地図やグラフ、くらしごよみから、沖縄県の位置や気候の特色、くらしについて、自分たちの住んでいる地域と比較しながら読み取っている。	○		観察ノート			
			・写真やイラストなどから、台風が多く水不足になりやすいという沖縄県の自然環境と、家づくりの工夫やダムがつけられていることを結び付けて考えることができる。	1	・台風や暑さに備えた家のつくりや水不足に対する備えなど、沖縄県の人々が気候に合わせて工夫してくれていることを考え、表現している。		○	ノート				
			・沖縄県では、冬に暖かく、台風が多い気候の特色に合った農業がおこなわれていることを理解することができる。	1	・沖縄県では、暖かい気候を生かしたさとうきびやマンゴーなどの栽培がさかんであることを理解している。	○		ノート				
			・写真やグラフから、多くの観光客が沖縄県を訪れるわけを考えることで、沖縄県の自然や文化、歴史が沖縄県の魅力になっていることや、それらが観光業と密接な関連があることを考えることができる。	1	・自然や気候、文化、歴史などが沖縄県の魅力になっていることや、それらが観光客の多さと密接な関連があることを考え、表現している。		○	ノート				
		寒い土地の暮らしー北海道旭川市ー	・自分たちが住んでいる地域と北海道旭川市とを比べることにより、旭川市が日本の北に位置していることや、冬は寒さが厳しく降雪量が多いこと、夏は涼しいことを、地図やグラフなどの資料から読み取ることができる。	選択	・地図やグラフ、くらしごよみから、北海道旭川市の位置や気候の特色、くらしについて、自分たちの住んでいる地域と比較しながら読み取っている。	○		観察ノート				
		・イラストや写真などから、旭川市でくらす人々は、気候に合わせて家のつくりを工夫したり、行政や市民が協力して除排雪の対応をしたりしていることを読み取り、理解することができる。	・イラストや写真などの資料から、旭川市の人々は、気候に合わせて家のつくりを工夫したり、行政や市民が協力して除排雪の対応をしたりしていることを理解している。		○		観察ノート					
		・寒さの厳しい北海道旭川市では、冷涼で昼夜の寒暖差が大きい気候を生かしたそばの栽培や寒さに強い米に品種改良した米作りなど、気候の特色に合わせた農業がおこなわれていることを理解することができる。	・北海道旭川市では、冷涼で昼夜の寒暖差が大きい気候を生かしたそばの栽培や米の品種改良をおこなっていることを理解している。		○		観察ノート					
		・写真やグラフから、北海道旭川市の冬の厳しい寒さや雪の多さを観光に生かす工夫や努力について考えることができる。	・冬の厳しい寒さや雪の多さといった自然や気候などが旭川市の魅力になっていることや、それらが観光客の多さと密接な関連があることを考え、表現している。		○		観察ノート					

月	単元	小単元	ページ	到達目標(活動目標)	時間	評価規準	主な評価の観点			評価の方法	既習事項で押さえるべき内容	上級学年・中学校との関連
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
		低地に住む岐阜県海津市の人々のくらし	40・41	・岐阜県海津市の輪中地帯について、古くから土地が川より低いことや、人々が州を堤防で囲んだことなどを、写真や地図などの各資料を関連づけて読み取ることができる。	1	・写真や地図などの資料から、どのように輪中ができたのか、輪中が川よりも低い土地であること、人々が州を堤防で囲んだことなどを、各資料を関連付けて読み取っている。	○			観察ノート	・土地利用図が読めること ・地域の地形や気候を生かして産業が行なわれていること ・農業や伝統工芸には、地域の特徴を生かしたものであること(小4) ・調べた地域の特徴を自分なりにまとめること(小3・小4)	【地理】 ・日本の川と平地 ・中部地方の生活の舞台 ・「水害を防ぐ工夫」 ・身近な地域の調査
			42・43	・治水工事や水屋の様子を調べることで、治水工事は、輪中に住む人々の気もちやくらしにどのような影響を与えたのかを考えることができる。	1	・治水工事に関する資料や、輪中に住む人々の水害に対する様々な工夫をもとに、治水工事後の人々の気もちやくらしについて考え、表現している。		○		観察ノート		
			44・45	・輪中地帯では、人々の知恵や工夫と、土地の改良工事や排水機場の設置などによって、土地のよさを生かした農業が営まれていることを理解することができる。	1	・輪中地帯では、土地のよさを生かした農業をおこなうために、人々の知恵や工夫によって、様々な課題を解決してきたことを理解している。	○			観察ノート		
			46・47	・水防訓練や水防倉庫の点検、国や県による川の水位の監視など、水害への備えが現在もおこなわれていることや、輪中地帯が水や自然とふれ合う魅力あふれる場所になっていることを理解することができる。	1	・海津市の人々が水害への備えを現在も引き続きおこなっているとともに、輪中地帯が水や自然とふれ合い、楽しめる場所となっていることを理解している。	○			観察ノート		
			48・49	・これまでの学習を振り返りながら、気候や地形の特色、くらしや産業の工夫について、沖縄県と岐阜県海津市の二つの地域を比べて、それぞれの特色をシートにまとめ、話し合うことで、自分の考えを深めることができる。	1	・「ふり返しシート」に、くらしや産業の様子を記述し、比べることで、予想と違ったことや新たに気付いたことなどを話し合うことにより、さらに考えを深めようとしている。			○	観察ワークシート		
		高い土地のくらしー群馬県嬬恋村ー	58・59	・火山によってできた高原の土地では、その気候や地形を生かした取り組みをしていることを知り、高原に住む人々のくらしについて興味、関心をもつことができる。	選択	・写真や地図などの資料から、火山によってできた高原の土地では、その気候や地形を生かした農業をしていることを知り、高原に住む人々のくらしについて興味、関心もち、調べようとしている。			○	観察ノート		【地理】 ・日本の山地と海岸 ・日本の農林水産業 ・関東地方の人々の営み ・各地との結び付きで成り立つ産業と生活 ・「克雪、利雪、楽雪」 ・身近な地域の調査
			60・61	・嬬恋村がキャベツの産地になった理由について、出荷先や土地の開拓などを資料や本などで調べ、広い耕地でキャベツを安定的に大量に作れるように努力してきたことを考えることができる。		・嬬恋村がキャベツの産地になった理由を、出荷先の確保や土地の開拓などと、キャベツを安定的に大量に作れるよう努力してきたことと関連して考え、表現している。		○		観察ノート		
			62・63	・キャベツ農家が気候を生かした作業手順や工夫をしていることを調べることで、キャベツ農家の生産に関わる努力や工夫を理解することができる。		・キャベツ農家が気候を生かした作業手順や工夫を調べることで、キャベツ農家の生産に関わる努力や工夫を理解している	○			観察ノート		
			64・65	・なぜ多くの観光客が嬬恋村を訪れているのか調べ、嬬恋村の特色である気候や自然環境を生かした取り組みや工夫を観光業でもおこなっていることを理解することができる。		・嬬恋村の特色である気候や自然環境を生かした取り組みや工夫をキャベツ以外の観光業でもおこなっていることを理解している。	○			観察ノート		

月	単元	小単元	ページ	到達目標(活動目標)	時間	評価規準	主な評価の観点			評価の方法	既習事項で押さえるべき内容	上級学年・中学校との関連
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
			48・49	・これまでの学習を振り返りながら、気候や地形の特色、くらしや産業の工夫について、北海道旭川市と群馬県嬬恋村の二つの地域を比べて、それぞれの特色をシートにまとめ、話し合うことで、自分の考えを深めることができる。		・「ふり返りシート」に、くらしや産業の様子を記述し比べることで、予想と違ったことや新たに気づいたことなどを話し合うことにより、さらに考えを深めている。			○	観察ワークシート		
6	導入	食生活を支える食料の産地	68・69	・自分たちが、日ごろ食べている給食の食材を手がかりに、食生活と食料生産のつながりについて、調べていこうとする意欲をもつことができる。		・わたしたちの食生活を支える食料生産に関心を持ち、食料品の産地について意欲的に調べようとしている。			○	観察ノート	・土地利用図が読めること(小4) ・お店やスーパーマーケットには他地域からたくさんの品物がやってきていること(小3) ・地域の地形や気候を生かして産業が行なわれていること ・農業や伝統工芸には、地域の特徴を生かしたものがあること(小4)	【地理】 ・日本の農林水産業「地産地消の広がり」 【公民】 ・「貿易の自由化と日本」 ・「コンビニエンスストアのお弁当を企画しよう」
			70・71	・食料の産地を調べ、気になることを出し合うなかで、くらしに必要な大量の食料の産地について、学習問題をつくり、予想を出し合い学習計画を立てることができる。	1	・わたしたちが生きていくうえで必要な食料の産地について、学習問題をつくり、予想を出し合い学習計画を立てようとしている。			○	観察ノート		
			72・73	・わたしたちの食生活を支える食料の産地について、地図帳や地球儀、様々な資料を関連付けながら調べ、食料生産は自然条件を生かして営まれていることを理解することができる。	1	・野菜や果物、畜産物を生産する産地は、自然環境と深い関わりをもち、営まれていることを理解している。	○			観察ノート		
	74・75		・農作物の生産の変化や食料自給率の変化などに着目して食料生産の概要をとらえ、国民の食生活の変化や今後の食料生産の問題について考えることができる。	1	・食料生産の概要をとらえ、国民の食生活の変化や今後の食料生産の問題について考え、表現している。		○		観察ノート			
	米作りのさかなな地域		76・77	・米を使った料理や製品について話し合い、我が国の食生活における米の役割について考えることができる。	1	・米は、古くから日本各地で作られ、わたしたちの生活と深い関わりがあることを考え、表現している。		○		観察ノート	・お店やスーパーマーケットには他地域からたくさんの品物がやってきていること(小3) ・地域の地形や気候を生かして産業が行なわれていること(小4) ・農業や伝統工芸には、地域の特徴を生かしたものがあること ・地域で作られる農作物も人々の工夫や努力がされていること ・調べた地域の特徴を自分なりにまとめること(小3・小4)	【地理】 ・日本の農林水産業 ・「地産地消の広がり」 ・日本の諸地域～各地方の人々の営み ・自然環境を生かした各地の農業 ・自然の制約に適応する人々の工夫 ・自然の制約や社会の変化を乗り越える
			78・79	・米の産地を調べることにより、日本の北の方で米がさかんに作られていることから、学習問題をつくり、予想を出し合い学習計画を立てることができる。	1	・山形県庄内平野での米作りについて、学習問題をつくり、予想を出し合い学習計画を立てようとしている。			○	観察ノート		
			80～83	・庄内平野の航空写真や土地利用図、グラフなどを関連付けて読み取り、庄内平野の地形や気候の様子をとらえ、米作りがさかななわけを考えることができる。	1	・庄内平野の地形と気候の様子を資料から読み取り、それらと米作りがさかななわけについて関連して考え、表現している。		○		ノート		
			84・85	・五十嵐さんの話や農事ごよみをもとに、庄内平野の米作りの様子について調べ、よい稲を育てるための工夫や努力を理解することができる。	1	・庄内平野の米作りの様子について調べ、よい稲を育てるための工夫や努力を理解している。	○			観察ノート		
			86・87	・庄内平野の農作業の機械化とほ場整備を調べることに、効率よく大量に米を生産することができるようになったことを考えることができる。	1	・農作業の機械化とほ場整備などを調べて、効率よく大量に米を生産することができるようになった理由を考え、表現している。		○		観察ノート		
			88・89	・庄内平野では、試験場や農家、JAなどが品種改良や有機栽培などにより、安全でおいしい米を作る取り組みをおこなっていることを理解することができる。	1	・試験場や農家、JAなどが品種改良や有機栽培など、安全でおいしい米を作る取り組みをおこなっていることを理解している。	○			観察ノート		

月	単元	小単元	ページ	到達目標(活動目標)	時間	評価規準	主な評価の観点			評価の方法	既習事項で押さえるべき内容	上級学年・中学校との関連
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
			90・91	・消費者の求めに応じ、品質を保ちながらいろいろな方法で輸送・販売していることをとらえらるとともに、これまでの学習を振り返り、自分の考えをまとめ、話し合うことで、さらに考えを深めることができる。	1	・これまでの学習を振り返り、学習問題について話し合うことにより、さらに考えを深めている。			○	観察ノート		
7			92・93	・日本がまわりを海に囲まれ、よい漁場に恵まれていることから、日ごろから多く消費している水産物についての学習問題をつくり、学習計画を立てることができる。	1	・日ごろ消費している水産物と日本の地形を関連付けて考え、水産物の生産について学習問題をつくり、学習計画を立てようとしている。			○	観察ノート		
			94・95	・銚子市の沖合漁業について調べ、まきあみ漁の様子や漁業の仕事に携わる人々の苦労や努力について理解することができる。	1	・魚の習性を生かしながら、まきあみ漁という方法で魚をとっていることや、水産業が自然条件に左右される仕事であることなど、働く人の工夫や苦労を理解している。	○			観察ノート	・お店やスーパーマーケットには他地域からたくさんの品物がやってきていること(小3)	【地理】 ・日本の領域の特色を見てみよう ・日本の農林水産業 ・「地産地消の広がり」 ・日本の諸地域～各地方の人々の営み ・「北陸の食文化」 ・自然の制約に適応する人々の工夫【公民】 ・スーパーマーケットから現代社会を見てみよう ・グローバル化・結び付きを深める社会 ・国際社会における国家 ・消費生活を支える流通 ・グローバル化する日本経済 ・「貿易の自由化と日本」 ・「コンビニエンスストアのお弁当を企画しよう」 ・貧困問題-公正な社会を創る①② ・世界とつながる日本
			96・97	・写真やグラフなどから、銚子漁港が水あげした大量の魚をすぐに処理・加工できる施設や漁船の補給施設が充実していること、水あげ量が日本一であることを結び付けて考えることができる。	1	・銚子漁港では、魚種ごとに市場が分かれていること、その周辺には水産関連施設が充実していることなど、銚子漁港が水あげ量が日本一であることを関連付けて考え、表現している。			○	観察ノート	・地域の地形や気候を生かして産業が行なわれていること ・農業や伝統工芸には、地域の特徴を生かしたものであること(小4)	
			98・99	・魚の輸送について調べ、魚が消費者の求めに応じ、品質を保ちながら輸送・販売していることをとらえ、これまでの学習を振り返り、自分の考えをまとめ、話し合うことにより、さらに考えを深めることができる。	1	・これまでの学習を振り返り、学習問題について、予想と違ったことや新たに気付いたことなどを話し合うことにより、さらに考えを深めている。			○	観察ノート	・地域で作られる農作物も人々の工夫や努力がされていること ・調べた地域の特徴を自分なりにまとめること(小3・小4)	
			100・101	・のりの養殖のさかんな佐賀県の地形の特色について調べ、自然を生かしてのりの養殖をおこなっていることを理解することができる。	1	・地図や写真資料から、佐賀県ののりの養殖は自然の地形や風土を生かしておこなわれていることを理解している。	○			観察ノート		
			102・103	・のりの養殖の工夫や苦労、品質を高める取り組みや新たな課題について理解することができる。	1	・のりの養殖の様子や働く人の話などから、のりを出荷するまでの働く人の工夫や努力、新たな課題について理解している。	○	○		観察ノート		
			104・105	・日本各地でおこなわれている養殖業について調べることにより、養殖業がかかえる問題についてとらえらるとともに、これまでの学習を振り返り、さらに考えたい問題についての自分の考えをノートにまとめて、考えを深めることができる。	1	・水産業の学習を振り返り、予想と違ったことや新たに気付いたことなどを話し合うことにより、さらに考えを深めている。			○	ノート		
			106・107	・世界に認められる宮崎県の畜産業に着目して、学習問題をつくり、全国でも有数の産地である肉牛の生産に従事する人々の工夫や努力について意欲的に調べることができる。		・世界に認められる宮崎県の畜産業に着目して、学習問題をつくり、肉牛の生産をしている人々の工夫や努力について意欲的に調べようとしている。			○	観察ノート		
			108・109	・肥育農家の人の仕事の工夫や努力、また、新鮮で安全・安心な牛肉を消費者に届けるための工夫や努力について理解することができる。	選択	・肥育農家の工夫や努力、新鮮で安全で安心な牛肉を消費者に届ける工夫や努力について理解している。	○			観察ノート		

月	単元	小単元	ページ	到達目標(活動目標)	時間	評価規準	主な評価の観点			評価の方法	既習事項で押さえるべき内容	上級学年・中学校との関連
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
		選択)	110・111	・口蹄疫からの復興の様子や、宮崎牛のブランド力を高めるための宮崎県や農家の人々の工夫や努力について調べ、適切に表現することができる。		・口蹄疫から復興していく人々の努力や宮崎牛のブランド力を高めていくための県や関係機関の取り組みを関連付けて考え、表現している。		○		観察ノート		
9		これからの食料生産	120・121	・主な食料の輸入先と輸入量の地図や食料自給率のグラフなどから、我が国の食料の輸入や食料自給率について調べ、食生活の変化と食料自給率や食料輸入の関連について考えることができる。	1	・我が国の食料の輸入状況や食料自給率の変化などを調べ、食生活の変化と食料自給率や食料輸入の関連について考え、表現している。		○		観察ノート	・お店やスーパーマーケットには他地域や外国からたくさんの品物が来ていること ・自分たちの県も人やもので世界とつながっていること (小3・小4)	【地理】 ・日本の農林水産業 ・「地産地消の広がり」 ・グローバル化が進む世界 ・世界への窓口・日本の中心 【公民】 ・スーパーマーケットから現代社会を見よう ・グローバル化-結び付きを深める社会 ・消費生活を支える流通 ・グローバル化する日本経済 ・「貿易の自由化と日本」 ・「コンビニエンスストアのお弁当を企画しよう」 ・貧困問題-公正な社会を創る①② ・世界とつながる日本
			122・123	・海の環境の変化や安い外国産食品の輸入、食生活の変化や就労人口の減少など、我が国の水産業や農業の生産の様子を調べ、日本の食料生産をめぐる問題についての学習問題をつくり、予想を出し合い学習計画を立てることができる。	1	・我が国の水産業や農業の生産の様子を調べ、日本の食料生産の問題について学習問題をつくり、学習計画を立てようとしている。			○	観察ノート		
			124・125	・水産物の資源管理について調べることににより、安定した漁業生産をめざす持続可能な漁業の取り組みや、それに携わる人々の工夫や努力について理解することができる。	1	・漁獲量を維持するための持続可能な漁業の取り組みやそれに関わる人々の工夫や努力、水産物の資源管理について理解している。	○			観察ノート		
			126・127	・米作りでのICT化や生産・加工・販売を関連づけた「6次産業化」、次世代型ハウスなどの新しい取り組みについて調べることににより、高品質な農作物を無駄なく作ることや付加価値を付けることによって、安定した農業生産をめざしていることを考えることができる。	1	・米作りでのICT化や6次産業化、次世代型ハウスの取り組みが、農業の生産性を高め、安定した農業生産につながることを関連付けて考え、適切に表現している。		○		観察ノート		
			128・129	・産地直売所や日本の農産物の輸出などの取り組みを調べるとともに、これまでの学習を振り返り、自分の考えをまとめ、話し合うことにより、さらに考えを深めようとすることができる。	1	・これまでの学習を振り返り、日本の食料生産者の新たな取り組みについてまとめ、予想と違ったことや新たに気付いたことなどを話し合うことで、さらに考えを深めようとしている。			○	観察ノート		
			130・131	・これからの食料生産の発展について、ロボット技術や情報通信技術を使った新たな取り組みについて調べ、農作業の省力化や栽培技術の継承、人材確保などよりよい農業経営を進める人々の工夫や努力について理解することができる。	1	・農作業の省力化や栽培技術の継承、人材確保などの課題解決のためのICTを活用したスマート農業の可能性やよさを理解している。	○			観察ノート		
			132・133	・これまで学習したことから、これからの日本の食料生産がよい方向に向かう取り組みについて、生産者と消費者の立場などから多角的に考え、話し合うことで、自分の考えを深めることができる。	1	・これからの日本の食料生産のあり方や食料消費について、生産者と消費者の立場などから多角的に考え、話し合うことにより、自分の考えを深め、表現している。		○		スライドノート		

月	単元	小単元	ページ	到達目標(活動目標)	時間	評価規準	主な評価の観点			評価の方法	既習事項で押さえるべき内容	上級学年・中学校との関連
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
		導入	136・137	・わたしたちの身のまわりには多くの工業製品があることに関心をもち、工業生産とわたしたちの暮らしについて、調べていこうとする意欲を高めることができる。		・身のまわりにある工業製品を話し合うことにより、工業生産とわたしたちの暮らしに関心をもち、日本でつくられている工業製品や工業の種類について意欲的に調べようとする意欲を高めている。			○	観察ノート	・地域の中には、工場が集まっているところもあること ・交通事故を防ぐ取組みがされていること ・交通が人の行き来をさかんにしていること	【地理】 ・日本の工業 ・日本の諸地域～各地方の人々の営み ・工業の発展と地域の変化 ・各地との結び付きで成り立つ産業と生活 【歴史】 ・日本の高度経済成長 【公民】 ・グローバル化する日本経済 ・「貿易の自由化と日本」 ・新興国の台頭と経済格差 ・「急速な成長を遂げる中国」
			138・139	・工業の分類やその違いを調べることに、わたしたちの暮らしを支える工業生産がどこでどのようにおこなわれているかについて、学習問題をつくり、予想を出し合い学習計画を立てることができる。	1	・日本国内で様々な工業製品がつくられていることに気付き、工業生産がどこでどのようにおこなわれているのかについて学習問題をつくり、予想を出し合い学習計画を立てようとしている。			○	観察ノート	・地域の探検や見学の計画を立てること ・農作物を育てる過程がわかること ・伝統工芸の製作過程がわかること ・農作物の生産や	
			140・141	・日本の工業地帯や工業地域で工業が発展してきたことを、地形や人口、交通などの条件と関連付けて理解することができる。	1	・工業のさかんな地域が、人口や地形、交通など条件の適した地域に分布していることを理解している。	○			観察ノート	伝統工芸にも人々の工夫や努力があること (小3・小4)	
			142・143	・工場の大きさによってどのような違いがあるのか、大工場と中小工場の工場数や生産額などを比較し、日本の工業生産の概要を理解するとともに、これまでの学習を振り返り、考え話し合うことにより、さらに考えを深めることができる。	1	・大工場と中小工場の違いに関心をもち、日本の工業生産の概要や工業のさかんな地域の特色などを振り返りながら、学習問題について話し合い、考えをまとめている。			○	観察ノート		
		くらしや産業を支える工業生産	144・145	・中京工業地帯の生産額の多い市町を調べることに、輸送用機械の生産が多いことに気付き、自動車工場について、学習問題をつくり、予想を出し合い学習計画を立てることができる。	1	・中京工業地帯の様子を調べることに、自動車工場や関連工場が多いことから、学習問題をつくり、予想を出し合い学習計画を立てようとしている。			○	ノート観察	・農作物の生産や伝統工芸にも人々の工夫や努力があること (小3・小4) ・我が国の工業は世界とつながっていること (小3・小4)	
			146～149	・自動車工場を見学するにあたり、事前に写真や資料で、自動車ができるまでの作業をたしかめ、調べたいことをまとめて見学の視点をはっきりさせることができる。	1	・自動車工場の写真などをもとに、自動車工場は、広い土地でいくつかの工場に分かれていることや、製造過程では様々な作業があることなど、見学の視点となる内容について読み取っている。	○			ノート観察		
			150・151	・働く人の様子から、効率的に生産するために、働く人たちは作業内容について見直しをはかり工夫していることや、工場では働く人たちが働きやすいように勤務時間や職場の環境について配慮していることを理解することができる。	1	・働く人たちの話し合いの様子から、作業内容の見直しや工夫をしていること、2交替制の勤務ではラインを停止しないで自動車をつくらしていることなどを理解している。	○			ノート観察		
			152(20)・153	・関連工場の様子を調べ、関連工場が効率的な仕組みのもとで、部品を自動車工場へ供給することにより、品質の高い、無駄のない生産が実現していることを考えることができる。	1	・関連工場が効率的な仕組みのもとで、部品を自動車工場へ供給することで、品質の高い、無駄のない自動車の生産が実現していることから、自動車工場と関連工場との結び付きを表現している。			○	ノート観察		
		自動車工業のさかんな地										
10												

月	単元	小単元	ページ	到達目標(活動目標)	時間	評価規準	主な評価の観点			評価の方法	既習事項で押さえるべき内容	上級学年・中学校との関連
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
11	工業生産とわたしたちの暮らし	域	154 (20) 155	・完成した自動車のゆくえを調べることから、外国との関係に着目し、日本の自動車会社は、自動車を国内で生産するだけでなく、外国にある工場でも生産していることを理解することができる。	1	・日本の自動車会社が外国との関係や費用をおさえるために、自動車の生産を外国で生産し、販売することが増えてきたことを理解している。	○			ノート観察		
			156 ・ 157	・自動車会社がどのような自動車を開発しようとしているのか調べ、安全で人にやさしい自動車の研究・開発がおこなわれていることを理解することができる。	1	・エアバッグや衝突実験など、安全な自動車の研究・開発がおこなわれていることから、すべての人が利用できるよう、人にやさしい自動車の開発がおこなわれていることを理解している。	○			ノート観察		
			158 ・ 159	・環境にやさしい自動車づくりについてとらえらるとともに、これまでの学習を振り返り、自分の考えをまとめ、話し合うことにより、さらに考えを深めたり、広げたりすることができる。	1	・これまでの学習を振り返り、自動車工場の工夫や努力について関係図にまとめ、友だちと話し合う活動を通して、さらに考えを深めたり、広げたりしている。			○	ノート観察		
		輸送と日本の貿易	172 ・ 173	・原料や工業製品がどのように運ばれているのかを調べることにより、国内外の運輸や交通網の広がりについて調べ、わたしたちの暮らしを支える運輸の働きに気付くことができる。	1	・日本の工業生産は運輸の働きに支えられていることに気づき、わたしたちのくらしが交通網の発達と運輸に携わる人の努力に支えられていることを理解している。	○			ノート観察	・地域や県の中にも工場が集まっている場所があること ・工業は世界とつながっていること(小4)	【地理】 ・日本の資源・エネルギーと環境問題 ・日本の工業 ・「さまざまな発電方法の特徴と課題」 ・グローバル化が進む社会 ・日本各地を結ぶ交通・通信 ・日本の諸地域～各地方の人々の営み ・工業の発展と地域の変化 ・世界と結び付く中部地方 ・各地との結び付きで成り立つ産業と生活 ・世界への窓口・日本の中心 【歴史】 ・日本の高度経済成長 【公民】 ・消費生活を支える流通 ・グローバル化する日本経済 ・「貿易の自由化と日本」 ・新興国の台頭と経済格差 ・「急速な成長を遂げる中国」
			174 ・ 175	・世界の国々との貿易の様子を調べ、日本の工業生産と外国との関わりについて、学習問題をつくり、予想を出し合い学習計画を立てることができる。	1	・貿易や運輸による日本の工業と世界の国々との結び付きについて、学習問題をつくり、予想を出し合い学習計画を立てようとしている。			○	観察ノート		
			176 ・ 177	・日本では、工業の原料やエネルギー資源の多くを輸入していることや、その輸入品が以前と比べて変化してきている理由を理解することができる。	1	・日本の工業が、原料やエネルギー資源の多くを海外から輸入していることや、その輸入品が移り変わっている理由を理解している。	○			観察ノート		
			178 ・ 179	・輸出品の変化を調べることにより、これまでの日本の工業は、貿易や運輸に支えられ、加工貿易という形で発達してきたことと、貿易によって世界の国々と結び付きがあることを関連付けて考えることができる。	1	・日本の工業は、加工貿易で発達してきたことや、貿易によって世界の国々と結び付きがあることを関連付けて考え、表現している。		○		観察ノート		
			180 ・ 181	・貿易をめぐる様々な問題や貿易の自由化による影響があること、フェアトレードを進める必要があることなどについて調べ、話し合うことで、これからの工業生産や貿易について考えることができる。	1	・学習問題について話し合い、これからの工業生産や貿易について考えて、表現している。		○		観察ノート		
			182 ・ 183	・グラフや文書資料などを見て、日本の工業の課題についての話し合いを通して学習問題をつくり、予想を出し合い、東大阪市の中小工場の様子を中心に追究していく学習計画を立てることができる。	1	・グラフや文章資料から日本の工業の課題について読み取ったことをもとに、学習問題をつくり、予想を出し合い学習計画を立てようとしている。			○	観察ノート		

月	単元	小単元	ページ	到達目標(活動目標)	時間	評価規準	主な評価の観点			評価の方法	既習事項で押さえるべき内容	上級学年・中学校との関連
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
12		これからの工業生産	184・185	・独自の高い技術力や中小工場同士のつながりを生かした製品づくりなど、より優れた製品をつくりだしていることを理解することができる。	1	・中小工場では、高い技術を生かして生産するだけでなく、互いに協力してより品質の高い製品をつくっていることを理解している。	○			観察ノート		地方の人々の営み ・持続可能な社会を創る ・「中小工場が集まる東大阪市」 ・工業の発展と地域の変化 ・各地との結び付きで成り立つ産業と生活 ・伝統を生かし、生まれ変わる伝統産業 【公民】 ・持続可能な社会の仕組み ・資本主義経済と企業 ・「世界で活躍する日本の中小企業」 ・株式会社の仕組みと企業の社会的責任 ・労働の意義と労働者の権利 ・働きやすい職場を築くために ・「非正規雇用について考える」 ・グローバル化する日本経済
			186・187	・働く環境をよりよくすることのよさについて考えるとともに、これまでの学習を振り返り、学習問題について、自分の考えを話し合うことで、さらに考えを深めたり、新たな疑問を生み出したりすることができる。	1	・働く環境をよりよくすることについて考えるとともに、学習問題について話し合い、さらに深めた考えを表現している。		○		観察ノート		
			188・189	・工業生産に関わる会社や工場が、社会の変化に合わせて、高い技術を生かしながら、新しい工業製品をつくっていることを理解することができる。	1	・工業生産に関わる会社や工場が、環境問題や高齢化社会による問題などの課題解決やこれからのSociety5.0の社会へ向けた変化に対応して、高い技術を生かしたり、AIを活用したりすることで、新しい工業製品をつくりだしていることを理解している。	○			観察ノート		
			190・191	・より豊かで持続可能な社会の実現に向けた近未来への取り組みを調べるとともに、これからの工業生産の発展についての学習を振り返り、自分の考えをまとめ、話し合うことにより、これからの工業の発展についてさらに考えを深めることができる。	1	・より豊かで持続可能な社会の実現に向けた近未来への取り組みを調べるとともに、これからの工業生産の発展について話し合い、さらに考えを深めている。			○	観察ノート		
		情報をつくり、伝える	194・195	・くらしのなかにある様々な情報について関心をもち、どのような情報を、どのように入手しているのか話し合い、これからの学習への関心・意欲を高めることができる。	1	・くらしのなかにある情報について、どのような情報をどのように入手しているのかを意欲的に考えようとしている。			○	観察	・地域の人々の安全を守るために組織的・計画的に関係諸機関が相互に連絡を取り合っていること (小4)	【地理】 ・日本の商業・サービス業 ・日本各地を結ぶ交通・通信 【歴史】 ・マスメディアと現代の文化 【公民】 ・情報化-情報が変える社会の仕組み ・新しい人権②-情報化の進展と人権 ・「プライバシーの権利と表現の自由について考えよう」 ・マスメディアと世論 ・「新聞でメディアリテラシーを身に付けよう」 ・より良い社会を目指して
			196・197	・様々なメディアの特徴やメディアに対する信頼度について調べ、新聞のよさやわたしたちとの関係について考え、表現することができる。		・新聞のよさやわたしたちとの関係について考え、表現している。		○		観察ノート		
			198・199	・新聞紙面の構成や記事の内容を調べることを通して、新聞社がどのような紙面づくりをおこなっているのかについて学習問題をつくり、予想を出し合い学習計画を立てることができる。	1	・社会のできごとやくらしに役だつ情報をたくさん伝えている新聞について、学習問題をつくり、予想を出し合い学習計画を立てている。			○	観察ノート		
			200・201	・新聞社では、取材記者が様々な情報を収集し、取材して記事を書いていることを理解することができる。	1	・取材記者が、社会でどのようなできごとが起きているのか情報を集め、取材して記事を書いていることを理解している。	○			観察ノート		
			202・203	・新聞ができるまでを調べること、新聞社が正確な情報を早く読者に届けるために、収集した情報を選択・加工して紙面をつくり、届けていることを理解することができる。	1	・正確な情報を早く読者へ届けるために、多くの人が関わって新聞がつくられていることを理解している。	○			観察ノート		

月	単元	小単元	ページ	到達目標(活動目標)	時間	評価規準	主な評価の観点			評価の方法	既習事項で押さえるべき内容	上級学年・中学校との関連
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
1	情報社会に生きるわたしたち		204・205	・二つの新聞記事を比べることや、捏造記事、報道被害に関する資料を調べることで、新聞社は情報を選択し、意図をもって伝えていること、マスメディアによる情報発信は、社会やわたしたちに大きな影響を及ぼしていることを理解することができる。	1	・新聞社によって記事の大きさや内容が違うこと、発信される情報は、社会に大きな影響を及ぼすことを理解している。	○			観察ノート		
			206・207	・学習問題について話し合い、伝える情報の正確さや問題点を考えるなかで、自分たちも情報の発信や交流ができることから、さらに考えたい問題をつくり、予想することができる。	1	・情報化が進み、情報の発信や交流がだれにでもできるようになったことから、情報の取り扱いについてさらに考えたい問題をつくり、予想している。			○	観察ノート		
			208・209	・情報社会についての様々な問題から、これからの情報の扱い方について、自分の考えを表現することができる。	1	・これからインターネットを使う際に情報をどのように取り扱えばよいのか、自分の考えを表現している。		○		観察ノート		
		情報を生かして発展する産業(選択)	214・215	・情報が様々な産業のなかで大きな役割を果たしていたことやアイスクリームをつくる会社が気象情報を生かして売り上げを伸ばしていることから、気象情報を提供する会社に関心をもつことができる。	1	・様々な産業の情報の活用を振り返り、アイスクリームをつくる会社へ気象情報を提供する会社に関心をもっている。			○	観察ノート	・スーパーは工夫しながら物を販売していること(小3) ・地域の人々の安全を守るために組織的・計画的に関係諸機関が相互に連絡を取り合っていること(小4)	【地理】 ・日本の商業・サービス業 ・日本各地を結ぶ交通・通信 【公民】 ・情報化-情報が変える社会の仕組み ・契約と消費生活 ・消費者の権利を守るために ・消費生活を支える流通 ・新しい人権②-情報化の進展と人権 ・「プライバシーの権利と表現の自由について考えよう」 ・マスメディアと世論 ・「新聞でメディアリテラシーを身に付けよう」 ・より良い社会を目指して
			216・217	・気象情報を提供している会社がどのような情報を入手しているのかを調べることにより、産業における情報活用についての学習問題をつくり、予想を出し合い学習計画を立てることができる。	1	・気象情報を提供する会社の人の話から、情報がくらしだけでなく産業にも影響があることから、気象情報を利用している会社について、学習問題をつくり、予想を出し合い学習計画を立てようとしている。			○	観察ノート		
			218・219	・アイスクリームをつくる会社での予測情報の活用の様子について調べたり、考えたりすることを通して、いつもでたての新鮮な商品を届けるために必要な生産量を決める判断材料として予測情報を役だてていることを理解することができる。	1	・アイスクリームをつくる会社では、生産量を決めるときに判断材料として予測情報を役だてていることを理解している。	○			観察ノート		
			220・221	・予測情報を提供する会社の工夫や努力を調べるとともに、アイスクリームをつくる会社が提供された予測情報を活用するうえで大切なことについて考え、表現することができる。	1	・正確な情報を提供しようと努力する人と、情報を組み合わせる考え判断する人の話から、予測情報を活用するうえで大切なことについて考え、表現している。		○		観察ノート		
			222・223	・情報を生かして発展する産業が国民生活に果たす役割について話し合い、産業や社会のなかで情報をよりよく生かしていくために大切なことを考え、表現することができる。	1	・情報を生かして発展する産業が国民生活に果たす役割を考え、これからの社会で情報を生かすために大切なことについて、自分の考えをまとめている。		○		観察ノート		
			224・225	・伝統と歴史の豊かな京都市の観光行政における情報活用について、学習問題をつくり、予想を出し合い学習計画を立てることができる。		・京都市では、外国人観光客の誘致とそれに伴う問題に対して、どのように情報を生かしているのかという学習問題をつくり、学習計画を立てようとしている。			○	観察ノート		

月	単元	小単元	ページ	到達目標(活動目標)	時間	評価規準	主な評価の観点			評価の方法	既習事項で押さえるべき内容	上級学年・中学校との関連
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
		発展する観光業(選択)	226・227	・京都市は観光客の混雑を防ぐために、人気観光スポットの混雑予想や新しい観光スポットの提案などの情報を発信し、効果を上げていることを理解することができる。	選択	・京都市では、観光客の混雑を防ぐために、人気観光スポットの混雑予想や新しい観光スポットの提案をするなど、様々な情報を活用し、効果を上げていることを理解している。	○			観察ノート		
			228・229	・市役所以外の団体や人々が市とともに進めている取り組みを調べ、話し合い、情報を活用した観光産業の発展が国民生活に果たす役割について自分の考えをまとめることができる。		・情報を活用した観光産業の発展が国民生活に果たす役割を話し合い、調べたことや考えたことを表現している。		○		観察ノート		
		医療に生かされる情報ネットワーク(選択)	230・231	・「アザレアネット」という医療情報ネットワークによって医療情報が共有され、病気の治療に生かされていることに関心をもち、学習問題をつくることができる。	選択	・「アザレアネット」によって医療情報が共有され、病気の治療に生かされていることに関心をもち、「アザレアネット」について学習問題をつくり、予想を出し合い学習計画を立てようとしている。			○	観察ノート		
			232・233	・情報ネットワークの伸展により医療情報が共有されたことで、患者の負担が減り、これまで以上のきめ細やかな治療ができるようになったことを理解することができる。		・情報ネットワークの伸展により医療情報が共有され、時間やお金などの患者の負担が減り、これまで以上のきめ細やかな治療ができるようになったことを理解している。	○			観察ノート		
			234・235	・医療情報ネットワークが地域や他の職業とつながるよさについて話し合い、情報化の伸展に伴う医療の発展が国民生活に果たす役割について自分の考えをまとめることができる。		・医療情報ネットワークが地域や他の職業とつながるよさについて話し合い、情報化の伸展に伴う医療の発展が国民生活に果たす役割について、自分の考えをまとめ表現している。		○		観察ノート		
			238・239	・日本の急激な工業化や経済発展によって、くらしの変化や公害の発生がもたらされたことに関心をもち、国土の環境について調べていこうとする意欲をもつことができる。	1	・戦後のくらしや環境に関わる年表を調べることで、くらしが豊かになったものの、様々な環境問題などが起こっていることに関心をもち、自然災害や環境問題、公害など国土の環境について意欲的に調べていこうとしている。			○	観察ノート		
		自然災害が	240～243	・日本で起こっている自然災害を調べることにより、地形や気候と自然災害との関わりについて、学習問題をつくり、予想を出し合い学習計画を立てることができる。		・日本で起きた主な自然災害を調べることにより、地形や気候と自然災害との関わりについて、学習問題をつくり、予想を出し合い学習計画を立てようとしている。			○	観察ノート		
			244・245	・日本で起こる地震の数の多さや地震や津波が起こる仕組み、日本の降水量などを調べ、日本で自然災害が多い理由を理解することができる。		・日本が地震の起きやすい位置にあること、梅雨や台風、大雪などの降水量が多いことなど、自然災害が多い理由を理解している。	○			観察ノート		
			246・247	・自然災害がもたらす産業への被害について調べ、自然災害によって水産業や農業、工業、運輸業などの産業やわたしたちのくらしに大きな影響が出ることを理解することができる。		・自然災害によって水産業や農業、工業、運輸業などの産業やわたしたちのくらしに大きな影響が出ることを理解している。	○			観察ノート		
2												

月	単元	小単元	ページ	到達目標(活動目標)	時間	評価規準	主な評価の観点			評価の方法	既習事項で押さえるべき内容	上級学年・中学校との関連
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
3	国土の環境を守る	～ら人々を守る	248・249	・国や都道府県、市町村などが、自然災害からわたしたちの命やくらしを守るために、長い時間とたくさんのお金をかけて防災施設をつくり、減災のために努力していることを理解することができる。	1	・国や都道府県・市町村などが、砂防ダムや防潮堤など、自然災害の被害を減らすための防災施設を整備していることを理解している。	○			観察ノート		・「防災と私たち-岩手県金石市の中学生に学ぶ」 ・「東日本大震災からの復興と防災-仙台市を例に考える」 ・私たちの生活と財政 ・政府の役割と財政の課題 ・地球環境問題-持続可能な社会の実現 ・「温室効果ガスの排出削減について考えよう」
			250・251	・国や都道府県、市町村などが、自然災害からわたしたちの命やくらしを守るために各種情報の発信、避難の勧告や指示、ハザードマップの整備などに取り組んでいることを理解し、その活用について考えることができる。	1	・各種防災情報、ハザードマップなど、自然災害から命を守る情報をどのように活用していけばよいのか考え、適切に表現している。		○		観察ノート		
			252・253	・自然災害による被害を減らすために、自助や共助による備えや「ひなん三原則」などについて調べ、自然災害から自分たちの命やくらしを守るために、どのようなことが大切かを考えることができる。	1	・自然災害から自分たちの命やくらしを守るために、どのようなことが大切かを考えようとしている。			○	観察ノート		
		森林とわたしたちのくらし	254・255	・日本の森林の様子を調べ、人工林が増えていることについて、学習問題をつくり、予想を出し合い学習計画を立てることができる。	1	・わたしたちの生活は森林と関わりがあることをとらえ、森林には天然林と人工林があることや、人工林が増加してきたことなどから、日本の森林について学習問題をつくり、予想を出し合い学習計画を立てようとしている。			○	観察ノート		【地理】 ・日本のエネルギー・資源と環境問題 ・日本の山地と海岸 ・日本の農林水産業 ・多様な環境問題と環境保全の取り組み ・「屋久島の自然と人々の生活」 ・自然の特色を生かした観光産業 ・「植林による漁業の活性化」 【公民】 ・公害の防止と環境保全 ・「環境を守る住民と行政の力-愛知県名古屋市の藤前干潟-」 ・地球環境問題-持続可能な社会の実現
			256・257	・写真やグラフなどから、林業に携わる人々の仕事の様子を調べ、苗木から育て、木材として出荷するまでには、長い年月と多くの作業が必要であり、様々な工夫や努力をしていることや、国内の木材生産量や林業従事者数の減少などの林業の課題を理解することができる。	1	・林業に携わる人々の仕事の様子を調べ、木を育てるには、長い年月と多くの作業が必要であることを読み取り、林業に携わる人々の工夫や努力を理解している。	○			観察ノート		
			258・259	・間伐をしていない人工林と間伐をしている人工林を比べ、手入れをしない人工林が増え、野生動物による農業被害の増加や自然災害への不安など、わたしたちのくらしにも影響が出ることを理解することができる。	1	・手入れをしない人工林が増えることで、わたしたちのくらしにも影響が出ることを理解している。	○			観察ノート		
			260・261	・国土の保全や水源の涵養などの森林の役割について調べ、森林を守ることの大切さと森林を保護する人々の願いを結び付けて考え、表現することができる。	1	・森林を守ることの大切さと森林を保護する人々の願いを結び付けて考え、表現している。		○		観察ノート		
			262・263	・間伐材の利用や、住宅やオフィスでの木材の利用などの、国産木材の利用を進めるための取り組みを調べ、林業の発展や森林の保護のために働く様々な人の工夫や努力を理解することができる。	1	・国産木材の利用を進めるための取り組みを調べ、林業の発展や森林の保護のために働く様々な人の工夫や努力を理解している。	○			観察ノート		

月	単元	小単元	ページ	到達目標(活動目標)	時間	評価規準	主な評価の観点			評価の方法	既習事項で押さえるべき内容	上級学年・中学校との関連
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
		環境とわたしたちのくらし	264・265	・これまでの学習を振り返り、自然環境を守るためには国民一人一人の協力が必要であることに気づき、自然を守るために自分たちができることを考え、互いに交流することを通して、考えを深めることができる。	1	・人々の願いや努力、多くの人々の協力によって森林が守られていることを振り返り、自然を守るために大切であると思うことや自分にできることを話し合い、より具体的な考えに深め、表現している。		○		カード		
			266・267	・四日市市で起きた公害の様子を調べることにより、被害の大きさと被害をなくす取り組みについて、学習問題をつくり、予想を出し合い学習計画を立てることができる。	1	・四日市市で起きた公害で、空気のごれ、悪臭、騒音などにより多くの人が苦しんだこと、今では改善されていることから、学習問題をつくり、予想を出し合い学習計画を立てようとしている。			○	観察ノート		
			268・269	・工業の発展を重視したこと、公害を防ぐ技術が発達していなかったことなど、公害が発生した理由をつかむとともに、四大公害についてグラフや資料で調べ、国民の健康や生活環境が脅かされていたことを理解することができる。	1	・四大公害の原因についてグラフや資料で調べ、公害によって国民の健康や生活環境が脅かされていたことを理解している。	○			観察ノート		
			270・271	・公害に苦しむ人々の取り組みと関係の諸機関や人々の協力や努力によって環境が改善されていったことを関連付けて考えることができる。	1	・公害に苦しむ人々の取り組みと関係の諸機関や人々の協力や努力によって環境が改善されていったことを関連付けて考え、表現している。		○		観察ノート		
			272・273	・公害を語り継ぐとともに、取り戻した環境を守り、二度と公害を起こさないための四日市市の取り組みを調べることにより、環境保全の重要性や一人一人の協力の大切さを理解することができる。	1	・四日市市では、公害を語り継ぐ取り組みや二度と公害を起こさないための取り組みなどを、市や企業、市民がともにおこなっていることを理解している。	○			観察ノート		
			274・275	・一度破壊された環境を取り戻すためには長い時間と多くの人の努力や協力が必要であることに気づき、環境の未来について自分たちができることを考えることができる。	1	・これまでの学習を振り返り、調べて分かったことや新たに気づいたことなどを話し合うことにより、環境を守るために、自分たちにできることについて考えようとしている。			○	観察ノート デジタル新聞		
		テスト		・テストをする。	8	・既習の内容を理解している。	○	○		ペーパーテスト		

第6学年 社会科年間指導計画

月	単元	小単元	ページ	到達目標(活動目標)	時間	評価規準	主な評価の観点			評価の方法	既習事項で押さえるべき内容
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
4		導入	8・9	・JOY倶楽部の青年たちの活動写真や「考えよう!SDGs」などから、人々の願いが政治の働きと結び付きがあることに気づき、憲法や政治学習への意欲を高めることができる。	1	・みんなが幸せになる願いが、政治の働きと結び付きがあることに気づき、憲法や政治学習への意欲を高めている。			○	観察ノート	・地域にある公共施設の位置に気付いていること ・公共施設の働きに気付いていること ・事件や事故を防ぐために自分たちでできること
			10・11	・JOY倶楽部の青年たちの活動は、基本的人権の保障や政治の働きにつながることで、その基本的人権の保障と政治は、日本国憲法にもとづくものであることを理解することができる。		・JOY倶楽部の青年たちの話や友だちのカードから、彼らの活動が基本的人権の保障や政治の働きにつながることを理解している。	○			観察ノート	・地域の様子は場所によって違っていること(小3) ・地域の人々は願いを実現するために、様々な工夫や努力をしていること
			12・13	・日本国憲法と政治が、自分たちのくらしとどのようにつながっているのかについて、学習問題を考え、調べる計画を立てることができる。		・日本国憲法と政治が自分たちのくらしとどのようにつながっているのかについて、進んで調べる計画を立てている。			○	観察ノート	・地域の人々は願いを実現するために、様々な工夫や努力をしていること(小4)
			14・15	・基本的人権と国民の義務について、自分たちのくらしと関連付けて考え、適切に表現することができる。		・基本的人権と国民の義務について、自分たちのくらしと関連付けて考え表現している。		○		観察ノート	・開発や自然保護の大切さに気が付いていること
			16・17	・身のまわりには、人権に関する多様な問題があり、その問題を解決するために、国が法律をつくっていることを理解することができる。		・基本的人権に関する問題を通して、日本国憲法と法律などの決まりとの関係を理解している。	○			観察ノート	・我が国は多国との貿易の上に成り立っていること(小5)
			18・19	・日本国憲法の前文の内容から、国民主権の考え方や、国民が選挙を通じて政治に参加する制度を保障していることを理解することができる。		・現在の日本の民主政治は、日本国憲法の基本的な考え方である国民主権の考え方と深く関わっていることを理解している。	○			観察ノート	
			20・21	・国の政治が、国会、内閣、裁判所の三つの機関でおこなわれていることを調べ、障害者差別解消法の法律ができる仕組みや選挙を通じて、国民と国会との関わりや国会の働きについてとらえることができる。		・国会が国の唯一の立法機関であることや、衆議院、参議院など国会のはたらきについて理解している。	○			観察ノート	
			22・23	・内閣の仕組みの図や税金の収入、支出のグラフ資料を調べ、税金の使い道や各省庁の役割など、内閣の働きについて理解することができる。		・内閣や各省庁によって国の政治がおこなわれていることを理解している。	○			観察ノート	
			24・25	・裁判所の仕組みを通じて、裁判所の働きを理解し、国会、内閣、裁判所の三権分立の仕組み、各機関の働き、裁判と国民との関わりについてとらえることができる。		・裁判所の働きについて調べ、三権分立について理解している。	○			観察ノート	
			26・27	・日本国憲法の平和主義の実現をめざす国や地方公共団体、国民の取り組みの意味を考え、適切に表現することができる。		・日本国憲法の平和主義の実現をめざす取り組みの意味を考え、ノートにまとめている。		○		ノート	

月	単元	小単元	ページ	到達目標(活動目標)	時間	評価規準	主な評価の観点			評価の方法	既習事項で押さえるべき内容
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
5	わが国の政治のはたらき		28・29	・世界で平和の実現のために力をつくした日本人や、日本での平和の実現につながる取り組みを調べ、平和主義の考えが、どのように実現されているのか、理解することができる。	1	・中村さんと緒方さん、理事長さんの話から、平和主義の考え方が、どのように実現されてきたのか、写真や話から説明している。		○		観察ノート	
			30・31	・わたしたちのくらしと、日本国憲法や政治とのつながりについて考えをまとめ、話し合いを通して考えを見直し、クラスで深め合いをしている。	1	・発表者の考えの良いところを取り入れ、自分の考えを見直している。		○		観察ノート	
			32・33	・日本国憲法の三大原則について話し合われている問題から、調べてみたい問題を見出し、分かったことをカードにまとめている。	1	・いろいろな資料を調べ、資料から分かることや取り組みをまとめている。		○		カード	
			34・35	・発表者の意見の同じところや異なるところを見出し、良い点を取り入れて自分の考えを見直し、吹き出しに書いている。	1	・調べたい問題についての考える資料を根拠に、自分の考えを見直したり、深めたりしている。		○		観察ノート	
			36・37	・待機児童に関する資料から、共働き家庭、核家族の増加による待機児童の増加を調べ、子どもをもつ家庭は、子育てのための支援の願いをもっていることに気付くことができる。	1	・日本各地で待機児童が多いことが問題であることを知り、そのことと共働き世帯や核家族の増加とに関係があることに気付いている。		○		観察ノート	・地域にある公共施設の位置に気づいていること(小3) ・公共施設の働きに気づいていること(小3)
			38・39	・足立区の待機児童への取り組みを調べ、区がどのように住民の願いを実現していくのかについて、学習問題を考え、調べる学習計画を立てることができる。	1	・自分が調べたいことを明らかにし、学習問題を話し合い、学習計画を立てている。			○	観察ノート	・地域の人々は願いを実現するために、様々な工夫や努力をしていること(小4)
			40・41	・「足立区役所待機児童ゼロ対策担当の人の話」をもとに待機児童対策について調べ、住民の願いをかなえる取り組みについて、区の果たす役割をまとめ、費用から税金の使われ方に着目し、税金の種類や働きについて理解することができる。	1	・住民の願いである待機児童への取り組みを調べ、区役所がさまざまな政策を実行するために、国や東京都からの補助金や、区民からの税金が多く使われていることを理解している。	○			観察ノート	
			42・43	・「住民の願いが実現するまでの流れ」や「足立区議会事務局の人の話」などを調べ、住民の願いを実現するための区役所や区議会の働き、取り組みについて、理解することができる。	1	・住民の願いを実現するための区役所や区議会の働き、取り組みについて、理解している。	○			観察ノート	
			44・45	・区役所や区議会の働きをもとに、学習問題についての自分の考えをまとめ、自分たちの区の政策、予算に着目し、自分と政治の関わりについて考える。	1	・区役所や区議会の働きをもとに、学習問題についての自分の考えを話し合い、ノートに工夫してまとめている。		○		ノート	

月	単元	小単元	ページ	到達目標(活動目標)	時間	評価規準	主な評価の観点			評価の方法	既習事項で押さえるべき内容
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
		自然災害からの復旧や復興の取り組み(選択)	46・47	・広島市で起きた豪雨災害の様子とその被害や復旧・復興の様子について関心をもち、話し合いを通して学習問題につなげることができる。	選択	・広島市の土砂災害で被害にあった人々の思いや願いを受けて、政治はどのような働きをしたのかについて関心や問題意識をもち、学習計画を立てようとしている。			○	観察ノート	・地域の人々の安全を守るために、組織的・計画的に関係諸機関が連携していること(小4) ・災害時には情報が大切であること(小5)
			48・49	・災害が起きたときに、国や都道府県、市(区)町村などの行政やそのほかの連携機関は、被災者の人々の思いや願いにこたえるために、どのような取り組みをおこなっているのか理解することができる。		・災害が起きたときに、国や都道府県、市(区)町村などの行政や、そのほかの連携機関がおこなう取り組みについて理解している。	○			観察ノート	
			50・51	・災害時や災害復旧後の災害復興に向けた国や都道府県、市(区)町村の取り組みを理解するとともに、地域の人々による取り組みについても理解することができる。		・災害時や災害復旧後の災害復興に向けて、国や都道府県、市(区)町村がおこなう取り組みや、地域の人々による取り組みについて理解している。	○			観察ノート	
		経験をむだにしないまちづくり(選択)	52・53	・わたしたちの願いを実現するために、国や県、市(区)町村などがどのように関わり合いながら政治をおこなっているか、話し合いを通して学習問題につなげることができる。	選択	・水銀に関する水俣条約や環境モデル都市づくりなどの取り組みから、国や都道府県、市(区)町村がどのように関わり合いながら、地域の開発や活性化をおこなっているかについて関心をもとうとしている。			○	観察ノート	・地域の人々は願いを実現するために、様々な工夫や努力をしていること(小4)
			54・55	・国や都道府県、市(区)町村が人々の願いを実現するために、互いに協力して地域の開発や経済の活性化のために様々なことに取り組んでいることを理解することができる。		・国や都道府県、市(区)町村が人々の願いを実現し生活の安定と向上を図るために、互いに連携して地域経済の活性化や雇用機会の創出のために様々な取り組みをおこなっていること理解している。	○			観察ノート	
			56・57	・環境に配慮したまちづくりのほかに、水俣市が市民の願いを実現する取り組みを調べ、農林水産物のブランド化など、考えたことを話し合うことができる。		・市役所の人の話や、市の取り組みの写真などを調べ、興味をもって気付いたことを話し合っている。		○		観察ノート	
		導入	60～67	・我が国の歴史は、様々な人物が活躍したり、出来事が起こったりして変化してきたことを、大阪府堺市に残る遺跡や文化財について調べ、歴史のサインを見つけ、歴史の学習への関心をもつとともに、歴史を学習するときに必要な調べ方やまとめ方について理解することができる。	1	・我が国の歴史の変化から、歴史の学習への関心をもち、主体的に問題を追究しようとしている。			○	観察	・昔のくらしや道具について学習したこと ・昔からまちに伝わる行事を調べたこと ・家族(父母、祖父母)や郷土資料館からの聞き取ったこと ・道具や遊びをもとに年表をつくったこと(小3) ・人々の願いの中には、昔から変わらないものもあること(小4) ・日本の周りの国々の位置が分かること
			68～71	・縄文時代と弥生時代の様子を描いた想像図の比較を通して、自分たちの生活と比べながら、大昔の人々の生活の様子に興味・関心をもち、くらしの変化についての学習問題を考え、学習の見通しをもつことができる。		・大昔のくらしの変化について、学習問題や予想をもち、学習計画を立てている。			○	観察ノート	

月	単元	小単元	ページ	到達目標(活動目標)	時間	評価規準	主な評価の観点			評価の方法	既習事項で押さえるべき内容
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
6		大昔のくらしとくにの統一	72・73	・三内丸山遺跡や縄文時代の遺跡からの出土品をもとに、狩りや漁、採集をしていた時代の人々のくらしや社会の様子をとらえ、理解することができる。	1	・三内丸山遺跡や縄文時代の遺跡からの出土品をもとに、縄文時代の人々のくらしや社会の様子を理解している。	○			観察ノート	・米作りには広く平らな土地と水が必要であること ・米作りには多くの人手が必要であったこと
			74・75	・米作りが広がったところの人々のくらしの様子を調べ、人々のくらしや社会の変化をとらえることができる。	1	・米作りによって人々のくらしや社会がどのように変わったのかを理解している。	○			観察ノート	・遺跡の残る県や遺跡の位置を地図上から探すこと(小5)
			76・77	・吉野ヶ里遺跡などを調べ、小さなむらが大きくなつてと統一されていく社会の変化を考えることができる。	1	・米作りの広がりや大きくなつての成り立ちを関連付けて、社会の変化を考え、ノートに工夫してまとめている。		○		ノート	
			78・79	・大仙(仁徳天皇陵)古墳の様子、出土品や古墳のつくり方などから、強い力をもった王や、豪族が現れた古墳時代の様子や新しい文化を伝えた渡来人の役割を考えることができる。	1	・古墳の大きさや出土品、古墳づくりのようすなどから、当時の社会の様子について考え、ノートにまとめている。		○		ノート	
			80・81	・各地に大きな力をもった豪族が出現した古墳時代の様子を調べ、大和朝廷が、進んだ技術や新しい文化を伝えた渡来人との結びつきを強め、国を統一していったことをとらえることができる。	1	・古墳時代の様子を調べ、大和朝廷が渡来人との結びつきを強め、国を統一していったことを理解している。	○			観察ノート	
			82・83	・縄文時代・弥生時代・古墳時代の社会の仕組みと関連付けながら、国の起こりについて考え、適切に歴史新聞に表現することができる。	1	・縄文時代・弥生時代・古墳時代の社会の仕組みと関連付けながら、国の起こりについて表現している。		○		ノート新聞	
		天皇を中心とした政治	84～87	・法隆寺建設の想像図や聖徳太子がおこなった政治を調べ、当時の社会の様子や、どのように天皇中心の国づくりが進められていったのか考え、学習問題を考え、学習計画を立てることができる。	1	・法隆寺創建の想像図や聖徳太子がおこなった政治の仕組みを調べ、聖徳太子がおこなった国づくりに関心をもっている。			○	観察	・遺跡の残る県や遺跡の位置を地図上から探すこと ・日本の地方名、県名が地図から分かること ・世界の国々の位置が地図から分かること(小5)
			88・89	・中大兄皇子や中臣鎌足らによる大化の改新によって、大陸の政治の仕組みを参考にした天皇中心の国づくりが進められていったことを理解することができる。	1	・中大兄皇子や中臣鎌足が取り入れた税制や労働、大陸からの文化の摂取によって、強力な天皇中心の国づくりの基盤ができたことを理解している。	○			ノート観察	
			90・91	・大仏がつくられたころの世の中について調べ、聖武天皇が、仏教の力で国を安定させようとしたことを考えることができる。	1	・東大寺の大仏づくりに込められた願いについて考え、聖武天皇がどのように国を治めようとしたのかを考えている。		○		ノート観察	
			92・93	・東大寺の大仏は、行基の協力を得て、全国からたくさんの人と材料を集めてつくられたことを理解することができる。	1	・全国からたくさんの人と材料が集められて大仏がつくられたことを理解している。	○			ノート観察	
			94・95	・貴族の食事と農民の食事を比べ、当時の人々の生活の様子や身分による違いを理解することができる。	1	・当時の食事の写真などから、当時の人々の生活の様子や、身分による違いについて読み取っている。	○			ノート観察	

月	単元	小単元	ページ	到達目標(活動目標)	時間	評価規準	主な評価の観点			評価の方法	既習事項で押さえるべき内容
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
			96・97	・遣唐使らによって、奈良の都に中国や西アジアなどの影響を受けた文化が伝えられ、栄えていたことを理解することができ、学習問題について考えたことを図にまとめ、話し合うことができる。	1	・遣唐使が果たした役割について考え、外国との交流が当時の国づくりに大きな役割を果たしていたことを理解している。	○			ノート	
7		貴族が生み出した新しい文化	98・99	・「貴族のやしきのようす」を読み取ることを通して、当時の貴族のくらしを想像し、平安時代の文化に関する学習に興味をもって、学習問題を考え、学習計画を立てることができる。	1	・藤原道長及び、平安時代の貴族のくらしぶりに着目し、進んで学習問題を考え、学習計画を立てている。		○		ノート観察	・日本の地方名、県名が地図から分かること(小5)
			100・101	・文化が生まれ発展した背景、当時の文化の様子、現在とのつながりなど、貴族が生み出した文化について理解することができる。	1	・資料から、この時代に生まれた新しい文化の様子を読み取り、それらを理解している。	○			ノート観察	
			102・103	・このころにおこなわれた年中行事や遊びが、今も続いていることを理解し、学習問題に対して自分なりの意見をもち、話し合うことができる。	1	・貴族の文化について調べたことを、残されている物や年中行事、当時の時代背景、さらには現在と関連付けて考え、表現している。		○		ノート観察	
9		武士による政治のはじまり	106・107	・武士のくらしと貴族のくらしを比べる活動を通して、貴族にかわって武士が国の政治をつかさどるようになったことを学ぶとともに、当時の社会の様子や人々の生活の移り変わりについて関心をもち、学習への意欲を高めることができる。	1	・想像図などをもとに武士のくらしと貴族のくらしの違いについて考え、武士が力をもつことによって、世の中の様子がどのように変わったかを学習問題を立てて調べようとしている。			○	ノート観察	・年表の見方が分かること ・鳥瞰図からその土地の特徴をとらえること(小3) ・日本地図から県名が分かること ・博多の位置や近隣諸国の位置について地図から分かること(小5)
			108・109	・武士がどのように全国に勢力を広げ、政治の表舞台に立ったかを理解するとともに、その後、長く続く武家の政権がどのように成り立ち、武士はどのような願いをもって世の中をつくっていったのかを考えることができる。	1	・多くの武士が平家から源頼朝の味方になった理由を調べ、自分の考えを表現している。		○		ノート	
			110・111	・鎌倉に幕府を開いた頼朝の意図と、どのようにして武士による全国支配を可能にしていたのかを知るとともに、その政権の安定に不可欠な御家人との協力体制をその後の政権も引き継ぎ、幕府の政治を進めたことを理解することができる。	1	・鎌倉幕府が安定して全国を治めるために守護・地頭を置いたことや、街道を整備したことを理解している。	○			ノート観察	
			112・113	・元との戦いについて、絵詞や写真などの資料をもとに戦いの様子をつかみ、幕府と御家人たちが協力して戦ったことを調べることができる。	1	・元との戦いにおいて、鎌倉幕府と御家人がどのように応じたのかを調べ、幕府の命令のもと、御家人たちが協力して戦ったことを理解している。	○			ノート観察	

月	単元	小単元	ページ	到達目標(活動目標)	時間	評価規準	主な評価の観点			評価の方法	既習事項で押さえるべき内容
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
			114・115	・元との戦いのあと、御恩と奉公の関係が成り立たず、鎌倉幕府と御家人の関係がくずれ、幕府が減じたことを理解することができる。学習問題について自分の意見をまとめ、話し合うことができる。	1	・鎌倉幕府が減じた要因と、その後も武士の世の中が続いていくことを理解している。	○			ノート観察	
		今に伝わる室町の文化と人々の暮らし	116・117	・絵図をもとに、朝廷があり、幕府が置かれた京都の様子と、今も残る祇園祭について調べ、室町時代の文化の特色や現在のくらしとの関わりについて関心をもち、学習問題を考え、学習計画を立てることができる。	1	・室町時代の文化の特色や現在のくらしとの関わりについて関心をもち、学習問題を考え、学習計画を立てている。			○	ノート観察	・遺跡の残る県や遺跡の位置を地図上から探すこと(小5) ・祖父母が子どもだった頃と現代の住居の違いについて気付くこと ・人々の食事は時代とともに変化してきたこと(小3)
			118・119	・金閣と銀閣に関わる資料を活用して、金閣と銀閣の建造物としての特徴や、義満や義政が将軍だったころの様子について調べることができる。	1	・義満や義政が将軍だったころの文化や世の中の様子を、写真や資料などを活用して理解している。	○			ノート観察	
			120・121	・室町時代に広まった様々な文化を調べ、当時に生まれたこの文化が、日本の伝統文化や現代も親しまれる文化になっていることを理解することができる。	1	・室町時代に広まった様々な文化が、日本の伝統文化や現代も親しまれる文化になっていることを理解している。	○			ノート観察	
			122・123	・鎌倉・室町時代の貴族や武士以外の人々の様子をとりえ、室町時代の産業の発達や現代とのつながりを、これまでの時代と比較しながら考え、学習問題について話し合うことができる。	1	・鎌倉・室町時代の産業の発達や現代とのつながりについて、これまでの時代と比較しながら考え、自分の考えをまとめている。		○		ノート観察	
10		戦国の世の統一	126・127	・教科書の「今から約500年前の市のように」をもとに戦国時代の人々やまちの様子について具体的にイメージをもち、活発となった商業や河川を利用した物の流通のあり方について考えることができる。	1	・「今から500年前の市のように」の想像図をもとに、戦国時代の人々や生活の様子について想像している。			○	観察	・遺跡の残る県や遺跡の位置を地図上から探すこと ・中部地方・近畿地方が地図から分かること ・ヨーロッパの位置が世界地図から分かること
			128・129	・教科書の「長篠合戦図屏風」をもとに、鉄砲という新しい武器による戦い方の変化、天下統一に向けての2人の武将に対して学習問題を考え、学習計画を立てることができる。		・「長篠合戦図屏風」をもとに、鉄砲が伝わり、戦いの仕方が変化したことを読み取り、2人の武将について興味関心を高め、学習計画を立てている。			○	観察ノート	・米は日本人にとって重要な作物であること(小5)
			130・131	・日本と外国との関わりを調べて、海外からの貿易船がやってきて、キリスト教や鉄砲が伝わり、広まったことを理解することができる。	1	・教科書の資料や本文をもとに、キリスト教や鉄砲が広まったことを理解している。	○			観察ノート	
			132・133	・織田信長の人物調べを通して、短い期間に信長が領土を拡大したことや、信長の天下統一の進め方について理解することができる。	1	・教科書の資料をもとに織田信長の人物像や働きについて理解している。	○			観察ノート	

月	単元	小単元	ページ	到達目標(活動目標)	時間	評価規準	主な評価の観点			評価の方法	既習事項で押さえるべき内容
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
		武士による政治の安定	134・135	・豊臣秀吉の人物調べを通して、信長の意志を引き継ぎ天下を統一し、検地や刀狩を通して戦国の世を終わらせたことを理解することができる。	1	・教科書の資料をもとに豊臣秀吉の人物像や働きについて理解している。	○			ノート	・日本地図から地方名や県名が分かること(小5) ・当時日本と関係が深かった国々の位置が地図から分かること(小5)
			136・137	・2人の武将が戦国の世をどのように統一していったかについて話し合い、分かったことや自分の考えなどをまとめることができる。	1	・2人の武将がおこなったことを整理し、ノートやカードにまとめている。		○		カードノート	
			138・139	・徳川家康の人物調べを通して、江戸に幕府が開かれ、幕府による全国支配が固められていったことを理解し、江戸幕府の政治の仕方などについて学習問題を考え、学習計画を立てることができる。	1	・教科書の資料をもとに徳川家康の人物像や働きについて理解している。	○			観察ノート	
			140・141	・大名の配置や武家諸法度などについて調べ、江戸幕府が大名支配を強めていったことに興味をもち、資料から江戸幕府の大名支配について読み取ることができる。	1	・地図やグラフ、写真、本文記述をもとに、江戸幕府がどのような大名支配の仕組みをつくりあげたかを読み取っている。	○			観察ノート	
			142・143	・幕府や藩は、武士による支配体制を維持・強化していくために、身分の違いをもとに、より一層、身分の固定化を図ったことを考え、自分の意見を発表することができる。	1	・幕府や藩が身分の違いをもとに、より一層、身分の固定化を図ったことを考えて、ノートに自分の考えをまとめている。		○		観察ノート	
			144・145	・島原・天草一揆やキリスト教の禁止、鎖国の理由について調べ、鎖国下での貿易の様子について理解することができる。	1	・キリスト教の禁止と鎖国の理由について調べ、鎖国下での貿易の様子について理解している。	○			観察ノート	
			146・147	・オランダとの貿易や朝鮮通信使などについて調べ、鎖国政策のもとでの外国との交流の様子、あわせて北海道や沖縄の歴史について関心を高めるとともに、学習問題について話し合うことができる。	1	・貿易や朝鮮通信使などについて調べ、日本との関係について関心をもっている。			○	観察ノート	
			148・149	・「江戸のまちのようす」の絵図を手がかりに、町人のくらしや武士との関係に関心をもち、学習計画を立て、学習の見通しをもつことができる。	1	・江戸のまちや人々のくらしの様子に関心をもち、学習計画を立てて意欲的に追究しようとしている。			○	観察ノート	
			150・151	・町人が力をつけていったことで生まれた文化や学問に関心をもち、主に歌舞伎や人形浄瑠璃などを調べ、町人文化が栄えたことについて考えることができる。	1	・江戸時代の人々の楽しみに関心をもち、意欲的に調べ、考えながら追究しようとしている。			○	観察ノート	
			152・153	・町人が力をつけていったことで生まれた文化や学問に関心をもち、主に歌舞伎や人形浄瑠璃などを調べ、町人文化が栄えたことについて考えることができる。	1	・江戸時代の人々の楽しみに関心をもち、意欲的に調べ、考えながら追究しようとしている。			○	観察ノート	
11	日本のあゆみ										・人々はよりよい暮らしを願って様々な工夫をすること(小3) ・地域の特色を生かした伝統的な産業があること ・人々の暮らしを豊かにするために努力をした先人の働きがあったこと(小4) ・おおよその日本の

月	単元	小単元	ページ	到達目標(活動目標)	時間	評価規準	主な評価の観点			評価の方法	既習事項で押さえるべき内容
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
		江戸の社会と文化・学問	154・155	・杉田玄白や伊能忠敬の功績について調べ、蘭学という新しい学問が生まれ、社会に様々な影響を及ぼしたことを理解し、江戸時代の人々の暮らしについて文化や学問にふれ、自分の考えを明らかにすることができる。	1	・江戸時代の人々の暮らしについて、文化や学問にふれながら自分の考えを明らかにしている。	○			ノート	形が書けること(小5)
			156・157	・幕府が重んじた儒学や新しく起こった国学、寺子屋について調べ、それらが社会に果たした役割について意欲的に調べることができる。	1	・江戸時代の学問に関心を持ち、意欲的に調べようとしている。			○	観察ノート	
			158・159	・江戸時代の産業や百姓の暮らしの変化について調べ、産業や交易の発展とともに江戸や大阪などのまちが発展したことや、人々の工夫や努力によって各地の産業が発展した様子を理解することができる。	1	・農業技術の向上により、耕地面積増加につながっていったことを理解している。	○			観察ノート	
			160・161	・江戸時代の文化について、百姓、町人、武士の関わりについて、ノートにまとめ話し合い、文化についての自分の考えの変化について、ワークシートにまとめることができる。	1	・江戸時代の文化と室町時代の文化の違いや共通点について、ワークシートなどにまとめている。		○		ワークシート	
		明治の新しい国づくり	166・167	・江戸時代と明治時代のまのの様子を比較することを通して、人々の暮らしが欧米の文化や制度を取り入れたことで大きく変化したことを理解するとともに、新しい国づくりがどのように進められたのかについて興味をもち、学習問題を考え、調べる学習計画を立てることができる。	1	・江戸と東京のまのの様子や人々の暮らしの変化を進んで見つけ、そのような変化が起こった理由を予想したり考えたりして、学習計画を立てている。			○	観察ノート	・人々は暮らしを豊かにしようという願いをもっていること(小3) ・外国との位置関係や国内の都市の位置について地図から探すこと ・我が国は貿易で成り立っていること(小5)
			168・169	・世の中が大きく変わるきっかけとなった黒船の来航について調べ、二つの条約が結ばれたこと、それにより長く続いた鎖国が終わったことを理解することができる。	1	・二つの条約の内容を調べ、この条約により日本の鎖国と呼ばれた状態が終わったことを理解し、条約が今後どのような影響を与えるかを予想している。		○		観察ノート	
			170・171	・開国後の国内の影響について調べ、幕府や藩の政治の失敗、物価の上昇に対する民衆の不満から天皇中心の国家をつくる運動が起こり、武士の世の中を終わらせることにつながったことについて理解することができる。	1	・世の中の様々な動きについて問題意識をもって調べ、調べたことをもとに、開国から倒幕までの世の中の状況を理解している。	○			観察ノート	
			172・173	・新政府がおこなった政策について調べ、新政府がどのような世の中をつくっていったのかを考えることができる。	1	・新政府がおこなった様々な政策を調べ、新政府がどのような世の中をつくっていったのかを考えている。		○		観察ノート	

月	単元	小単元	ページ	到達目標(活動目標)	時間	評価規準	主な評価の観点			評価の方法	既習事項で押さえるべき内容
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
12			174・175	・富国強兵や殖産興業について調べ、様々な政策や欧米からの学びにより、我が国の近代化が進んだことを理解することができる。	1	・富国強兵や殖産興業について調べ、様々な政策や欧米からの学びにより、我が国の近代化が進んだことを理解している。	○			観察ノート	
			176・177	・明治時代の人々のくらしについて興味をもって調べたり、時代の変化について年表にまとめたりすることを通して、日本は、近代化によって人々のくらしや文化にも変化が起こったことを考え、時代の変化を年表にまとめ、学習問題について話し合うことができる。	1	・日本は、近代化によって人々のくらしや文化に変化が起こったことを理解し、時代の変化についてノートや年表にまとめている。		○		年表ノート	
		国力の充実をめざす日本と国際社会	178・179	・ノルマントン号事件と条約改正を手がかりにして、明治維新の後、新しい国づくりをした日本の動きに関心を持ち、学習問題を考えることができる。	1	・日本の国際的地位の変化とその背景に関心を持ち、問題解決の見通しをもって主体的に学習問題を設定しようとしている。			○	観察ノート	・人々はくらしを豊かにしようという願いをもっていること(小3) ・日本の領土が分かること ・近隣諸国の位置が地図から分かること ・工業の発達とともに公害問題が生じたこと ・公害から環境を守る取組みが行われるようになったこと(小5)
			180・181	・自由民権運動の高まりについて調べ、新しい政治の仕組みや人々の願いについて考え、武力ではなく言論によって政治の進め方が変わってきたことに気付くことができる。	1	・国会の開設を求めた板垣退助の働きやその後の政府の対応などについて、教科書の本文記述や資料から自由民権運動の広がりについて考えている。		○		観察ノート	
			182・183	・憲法の制定や、国会が開設されるまでの過程を調べ、明治政府がめざした政治のあり方がどのようなものだったのかを考え、話し合うことができる。	1	・大日本帝国憲法は、天皇中心の憲法で、国民の権利には様々な制限があったことを理解している。	○			観察ノート	
			184・185	・日清・日露戦争について調べ、二つの戦争を経て日本の国際的地位が向上したというところで、朝鮮半島に勢力を拡大したことを理解することができる。	1	・日清・日露戦争の原因や過程・結果を知り、日本の国際的地位が向上し、朝鮮半島に勢力を拡大したことを理解している。	○			ノート観察	
			186・187	・日露戦争後に日本が韓国にとった政策や、日露戦争後の日本とアジアや欧米諸国との関係について考えることができる。	1	・日露戦争後の日本の植民地政策を調べることを通して、日本や朝鮮の人々の思いを理解している。	○			ノート観察	
			188・189	・日清戦争前後の日本国内の産業や、その後の人々の生活の様子などについて調べ、国内の産業の力が充実するとともに、くらしにも変化が生じ、様々な社会問題が生まれたこと、世界で活躍する日本人が出てきたことを理解することができる。	1	・国内産業の発展の様子を調べ、それにとまって、社会問題が生まれたことや、近代的な生活が広がったこと、世界で活躍した日本人が現れたことを理解している。		○		ノート観察	
			190・191	・人々の生活を守る社会運動について調べ、当時の人々が自由と権利を求めて立ち上がったこと、政府の対応について考え、学習問題について、自分の考えを発表したり、みんなで深めたりすることができる。	1	・明治・大正時代に日本の国力が充実していった様子や、人々が自由と権利を求めて立ち上がったことについて、学習したことをワークシートやノートにまとめ、友だちと話し合っている。		○		ノートワークシート	

月	単元	小単元	ページ	到達目標(活動目標)	時間	評価規準	主な評価の観点			評価の方法	既習事項で押さえるべき内容
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
1		アジア・太平洋に広がる戦争	196・197	・日清・日露戦争を経て、国力を高めてきた日本が、第一次世界大戦からのヨーロッパ諸国の立ち直りと関東大震災、世界恐慌の影響を受け、不景気におちいったことを理解するとともに、その当時の日本の様子から学習問題を見出し、今後の日本の歩みについて学習計画を立てることができる。	1	・当時の写真や地図、グラフなどの資料を手掛かりとして、当時の日本の様子を調べ、その後の日本の歩みについて意欲的に学習問題を考えている。			○	ノート観察	・年表の見方が分かること ・戦争をしていた時代の暮らしについて気付くこと(小3) ・近隣諸国の位置が地図から分かること ・我が国は多国との貿易の上で成り立っていること ・日本の主な都市の位置が地図から分かること(小5)
			198・199	・1930年当時、不景気に苦しむ日本が大陸に進出し、満州事変に至る経過と理由をとらえることができる。	1	・満州事変以降の日本国内の様子や、日本と世界、中国との関係を理解している。	○			ノート	
			200・201	・日本は中国との全面戦争を始め、日本が中国に与えた影響や中国との戦争が長期化した経緯をとらえることができる。	1	・戦場が中国へと広がっていった様子や、それぞれの地域に大きな損害を与えたことを理解している。	○			ノート	
			202・203	・東南アジアから太平洋にまで戦場が広がっていった結果、アメリカ・イギリスとの太平洋戦争に突入していったことをとらえることができる。	1	・戦場が中国からアジア・太平洋の地域へと広がっていった様子や、それぞれの地域に大きな損害を与えたことを理解している。	○			観察ノート	
			204・205	・戦争の拡大に伴い、占領地の人々に様々な影響が及んだことや、国民生活が戦争中心になっていく過程を調べ、戦争が人々の生活に大きな影響を与えたことを考えることができる。	1	・戦争中のアジアや国内の人々の暮らしを調べ、人々が生命の危機にさらされ、自由を奪われた窮乏生活を強いられたことを考えている。		○		観察ノート	
			206・207	・アメリカ軍の攻撃で、兵士だけでなく、多くの一般国民が戦争の犠牲になったり、家を失ったりしたことをとらえることができる。	1	・本土への空襲を調べ、兵士だけでなく、多くの一般国民が戦争の被害にあったことを理解している。	○			観察ノート	
			208・209	・子どもや女性、高齢の住民までも巻き込んだ沖縄戦の様子について調べ、若者たちが、戦闘に参加せざるを得なかった時代の恐ろしさなどについて、カードにまとめることができる。	1	・住民を巻き込み、若者が戦闘に参加せざるを得なかったことを理解し、自分の考えをまとめている。		○		カードノート	
			210～213	・原爆投下による広島・長崎の甚大な被害によって日本が全面降伏し、戦争が終結したことをとらえ、これまでの学習を振り返り、新聞にまとめ、日本はなぜ、戦争をしたのかについて話し合うことができる。	1	・戦争や戦争中の人々の暮らしなどについて調べたり考えたりしたことを、根拠をもとに新聞などに表現し、話し合っている。		○		観察新聞ノート	
			214・215	・戦争によって破壊されたまちの様子や、戦後の人々のくらしの様子を調べ、戦後の住むところに苦労したり、食べるものが少なかったりした時代から現在のような豊かなくらしができるようになるには、どのような苦労があったのかを考え、学習問題を見出すことができる。	1	・終戦直後と現在のまちの様子や人々のくらしの様子などを比較することなどを通して、学習問題や学習の計画を考えている。			○	観察ノート	・戦争をしていた時代の暮らしについて気づくこと ・人々は豊かな暮らしを願って努力していること ・人々の暮らしに対する想いや願いが道具を発達させてきたこと(小3)

月	単元	小単元	ページ	到達目標(活動目標)	時間	評価規準	主な評価の観点			評価の方法	既習事項で押さえるべき内容
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
2		新しい日本へのあゆみ	216・217	・日本が、連合国軍の指令を受けて民主化のための改革を進めたことを調べ、平和で民主的な国としての基本を示した日本国憲法を制定したことを理解することができる。	1	・戦後の主な改革について資料から読み取るとともに、当時の人たちの新しい憲法への思いを考えている。			○	観察ノート	・日本の領土について分かること ・我が国は環境問題に取り組んでいること(小5)
			218・219	・サンフランシスコ平和条約と日米安全保障条約について調べ、アメリカとソ連とが東西冷戦の対立を深めていくなかで、日本がアメリカとの関係を深めたことを理解することができる。	1	・アメリカとソ連との対立のもとで、日本はアメリカとの関係を深めたことを理解している。	○			ノート観察	
			220・221	・発展した日本の経済や人々のくらしの変化について調べ、高度経済成長の背景には、日本の高い技術力や人々の努力があったこと、それに伴う公害問題が起こったことを理解することができる。	1	・高度経済成長の背景について考え、ワークシートやノートにまとめている。	○			ノート観察	
			222・223	・オリンピックや日本万国博覧会などの国際社会と日本との関わりについて調べ、経済が発展するとともに国際社会のなかで世界の国々との友好を深めたり、文化の向上に貢献してきたりした日本の役割を考えることができる。	1	・国際社会における日本の役割について、今までの取り組みを踏まえて、自分の考えをノートなどにまとめている。		○		ノート観察	
			224・225	・戦後、経済的に発展してきた日本に残された、領土などの課題について調べ、これからの未来に向けて期待される自分たちの役割について考えることができる。	1	・領土や国境をめぐる課題の解決へ向けて、自分の考えをノートなどにまとめている。		○		観察ノート	
			226・227	・戦後の経済成長や国際的な役割を担ってきた日本の姿、これから解決しなくてはならない課題などについて話し合い、歴史を学ぶ意義を考えるときに、これから自分たちに期待されていることを意欲的に考え、ノートにまとめ、学習問題について、自分の考えを話し合うことができる。	1	・歴史学習全体を振り返り、歴史を学ぶ意義やこれから考えたいことについて、意欲的に自分の考えをノートやワークシートにまとめている。			○	ノートワークシート	
			228・229	・日本の歴史の時間旅行について、見つけた歴史のサイン「交通」を調べ、交通の発達により、移動時間が短くなり、地域に新しい関係が生じるという歴史を学ぶ意味を理解し、世界に目を向け、調べようとする興味・関心をもつことができる。	1	・日本の歴史の時間旅行について、これまでの歴史学習を通して、自分の歴史のサインを見出し、適切に表現している。			○	ノートワークシート	
			232・233	・SDGsの目標や海外で活躍する日本人の姿から、世界の国に目を向け、日本とのつながりや国際交流について興味をもち、調べてみたいという思いをもつことができる。	1	・既存の知識や地図の情報などから、日本人の活躍やその国の様子について考え、調べてようとしている。			○	観察ノート	・地域のスーパーにも外国から品物がきていること(小3) ・人々の生活や産業は、国内地域や外国と深いつながりがあふれている

月	単元	小単元	ページ	到達目標(活動目標)	時間	評価規準	主な評価の観点			評価の方法	既習事項で押さえるべき内容
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
		日本とつながりが深い国々	234・235	・日本とつながりのある国について知っていることを出し合い、日本とつながりがある国について、より深く調べたいという思いをもち、学習計画を立てることができる。	1	・調べたいことを明確にして、調べ方やまとめ方の見直しをもって計画を立てている。			○	ノート観察	かあること(小4) ・わが国は貿易で成り立っていること ・我が国の周りの国々の位置について地図から分かること
			236～239	・アメリカと日本との歴史や貿易などのつながり、子どもの学校生活の様子、人々のくらしの様子について調べ、生活や文化・習慣について理解することができる。	2	・アメリカと日本との貿易などのつながり、子どもの学校生活の様子、人々のくらしの様子について理解している。	○			ノート作品	(小5) ・戦時中のできごとや他国に多大な損害を与えたこと ・世界の平和を目的に第二次大戦後国際連合が作られたこと
			240～243	・中国と日本との歴史や経済、文化のつながり、子どもの学校生活の様子、人々のくらしの様子について調べ、生活や文化・習慣について理解することができる。	選択	・中国と日本との歴史や経済、文化などのつながり、子どもの学校生活の様子、人々のくらしの様子について理解している。	○			ノート作品	・我が国の文化や政治の中には他国の影響を大きく受けているものがあること
			244～247	・ブラジルと日本とのつながり、子どもの学校生活の様子、人々のくらしの様子について調べ、生活や文化・習慣について理解することができる。	選択	・ブラジルと日本とのつながり、子どもの学校生活の様子、人々のくらしの様子について理解している。	○			ノート作品	・我が国は国際社会に貢献しようと努力していること(小6)
			248～251	・大韓民国と日本とのつながり、子どもの学校生活の様子、人々のくらしの様子について調べ、生活や文化・習慣について理解することができる。	選択	・大韓民国と日本とのつながり、子どもの学校生活の様子、人々のくらしの様子について理解している。	○			ノート作品	
			252・253	・日本と世界の国々とのつながりについて学び、世界の国々の多様性に気づき、共通点や相違点を見出し、そこでくらす人々とのように交流しているのかを追究したいという「さらに考えたい問題」をつくることができる。	1	・調べた国のことを振り返り、世界の人々の多様性について考えようとしている。			○	ノート観察	
			254・255	・オリンピックやパラリンピックなど、スポーツを通じて国際交流することで、お互いの歴史や文化を理解し、尊重し合って平和な世界をつくる努力をしていることを考えることができる。	1	スポーツを通じた国際交流について調べ、どんな意義があるか考えている。		○		ノート観察	
			256・257	・スポーツ以外にも、国際的な文化交流や日本からの文化発信を通して、世界中の国々が相互理解を図り、平和な世界を実現しようと取り組んでいることを理解し、「さらに考えたい問題」について話し合うことができる。	1	・文化的な国際交流について調べ、それについてどんな意義があるか考えている。		○		ノート観察	
			260・261	・写真資料を通して、世界がかかえる様々な問題について話し合い、だれが、どのように解決しようとしているのかを予想し、学習問題を考え、学習計画を立てることができる。	1	・写真資料をもとに、世界がかかえる様々な問題について調べ、話し合いを通して意欲的に学習問題を立てている。			○	ノート観察	・ゴミを減らしたり、リサイクルしたりして、環境を大切にすること ・人々の生活や産業は、国内地域や外国と深いつながりがあること
3		世界のなかの日本とわたしたち									
		世界がかかえる									

月	単元	小単元	ページ	到達目標(活動目標)	時間	評価規準	主な評価の観点			評価の方法	既習事項で押さえるべき内容
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
		国際問題と日本の役割	262・263	・戦争や紛争、飢えや病気に苦しむ人々の現状に問題意識をもち、国連やユネスコの活動を意欲的に調べ、問題の解決のために自分と関わらせながら考えることができる。	1	・戦争や紛争、飢えや病気に苦しむ人々の現状に問題意識をもち、国連やユネスコの活動を意欲的に調べ、問題の解決のために自分と関わらせながら考えている。			○	ノート観察	かあること (小4) ・身の回りの環境問題、公害などと人々の生活・産業との関係をとらえること ・わが国は貿易で成り立っていること
			264・265	・地球規模で起きている様々な地球環境問題を通して、持続可能な開発のためには国連が中心となり、各国やNGO、市民が協力して取り組むことが大切であることを理解することができる。	1	・地球環境問題を通して、国連が中心となって国やNGO、市民が協力して地球環境問題に取り組むことで、持続可能な開発が可能になることを理解している。	○			観察ノート	・我が国は豊かな自然があり、またその自然を大切にすること (小5) ・戦時中のできごとや他国に多大な損害を与えたこと
			266・267	・国連憲章を調べることを通して、国際連合がどのような目的でつくられ、どのような働きをしているのかを調べ、学習問題を話し合い、「さらに考えたい問題」を考えることができる。	1	・国連憲章をもとに、国連の目的や安全保障理事会、ユニセフ、ユネスコの働きについて調べ、世界の平和と国際協力をめざして活動する国際連合の動きについて考え、まとめている。	○			ノート	・世界の平和を目的として第二次世界大戦後に国際連合が作られたこと ・我が国も国際環境問題に取り組んでいること
			268・269	・日本がおこなっている発展途上国への教育や農業、医療などの支援や援助の様子を調べることを通して、様々な分野で日本は国際協力に参加していることをとらえることができる。	1	・日本は青年海外協力隊などによる支援を通して、様々な分野で国際協力に参加していることを理解している。	○			観察ノート	(小6)
			270・271	・日本がおこなっている国際協力について心に残っていることや、世界における日本の役割について考えたことをタブレットにまとめ、自分の考えを見直し、深め合いをすることができる。	1	・世界の人々ともに生きていくために自分がこれから取り組みたいことを考え、グループのなかで発表し、意見を交流して自分の考えを表現している。		○		タブレットノート	
		テスト		・テストをする。	6	・既習の内容を理解している。	○	○		ペーパーテスト	

上級学年・中学校との関連
【歴史】 ・民主化と日本国憲法 ・人権の歴史 ・立憲主義と日本国憲法 ・国民主権と天皇の地位 ・「国民投票法と選挙権年齢」 ・日本の平和主義 ・「集団的自衛権」 ・「沖縄と基地」 【公民】 ・国会の地位と仕組み ・国会の働き ・行政の仕組みと内閣 ・裁判所の仕組みと働き ・裁判員制度と司法改革 ・三権の抑制と均衡 ・「国民審査」 ・政治参加と選挙 ・私たちの生活と地方自治 ・地方自治の仕組み ・私たちの生活と財政 ・地方財政の仕組みと課題 ・住民参加の拡大と私たち ・基本的人権と個人の尊重 ・平等権-共生社会を目指して ・「共生社会と私たち」 ・自由権-自由に生きる権利 ・社会権-豊かに生きる権利 ・「高齢者の人権と生活保障」 ・人権保障を確かなものに ・「外国人参政権」 ・「裁判を受ける権利」 ・公共の福祉と国民の義務 ・「公共の福祉について考えよう」 ・民主主義と政治

上級学年・中学校
との関連

【公民】
・私たちの生活と地
方自治
・地方自治の仕組
み
・地方財政の仕組
みと課題
・住民参加の拡大と
私たち
・私たちの生活と財
政
・政府の役割と財政
・社会保障の仕組
み
・少子高齢化と財政
・社会集団の中で
生きる私たち
・効率と公正
・「私たちの政治参
加」

上級学年・中学校
との関連

【地理】

- ・「震災と防災・減災への取組み」
- ・「大震災のつめあと」
- ・過去からの継承と未来に向けた社会づくり
- ・「津波てんでんこ」
- ・自然の制約に適応する人々の工夫

【歴史】

- ・「歴史の中の大震災」

【公民】

- ・私たちの生活と地方自治
- ・地方自治の仕組み
- ・地方財政の仕組みと課題

【公民】

- ・私たちの生活と地方自治
- ・地方自治の仕組み
- ・住民参加の拡大と私たち
- ・社会集団の中で生きる私たち

【歴史】

- ・「時代や年表を読み取ろう」
- ・「『歴史の流れ』から思い出してみよう」
- ・「『歴史の流れ』からまとめてみよう」
- ・「歴史の調べ学習をするには・・・？」
- ・日本列島と縄文文化
- ・弥生文化と邪馬台国
- ・大王の時代

上級学年・中学校
との関連

【歴史】
・聖徳太子の政治
改革
・大化の改新
・律令国家の成立と
平城京
・奈良時代の人々
の暮らし
・天平文化

上級学年・中学校
との関連

【歴史】
・平安京と東アジア
の変化
・摂関政治と文化の
国風化
・「絵巻物を見てみ
よう」

【歴史】
・武士の成長
・武士の政権の成
立
・鎌倉幕府の成立と
執権政治
・モンゴルの襲来と
日本

上級学年・中学校
との関連

【歴史】

- ・産業の発達と民衆の生活
- ・室町文化とその広がり
- ・「室町時代の生活文化と現代」

【歴史】

- ・応仁の乱と戦国大名
- ・「戦国時代の城下町・一乗谷」
- ・ヨーロッパ人との出会い
- ・織田信長・豊臣秀吉による統一事業
- ・兵農分離と朝鮮侵略

上級学年・中学校
との関連

【歴史】
・江戸幕府の成立と
支配の仕組み
・さまざまな身分と
暮らし
・貿易の振興から鎖
国へ
・鎖国下の対外政
策
・「江戸のエコ社会」

【歴史】
・幕府政治の安定と
元禄文化
・享保の改革と社会
の変化
・新しい文化と化政
文化

上級学年・中学校
との関連

【歴史】
・開国と不平等条約
・尊王攘夷運動と開
国の影響
・江戸幕府の滅亡
・新政府の成立
・明治維新の三大
改革
・富国強兵と文明開
化
・近代的な国際関
係
・自由民権運動の
高まり
・立憲制国家の成
立
・「『解放令』から水
平社へ」

上級学年・中学校
との関連

【歴史】
・欧米列強の侵略と
条約改正
・日清戦争
・日露戦争
・韓国と中国
・産業革命の進展
・近代文化の形成
・「足尾銅山と田中
正造」
・大正デモクラシー
と政党内閣の成立
・広がる社会運動と
普通選挙の実現
・「『解放令』から水
平社へ」
・新しい文化と生活
・「関東大震災」
・「歴史の中の大震
災」

上級学年・中学校
との関連

【歴史】

- ・満州事変と軍部の台頭
- ・日中戦争と戦時体制
- ・太平洋戦争の開始
- ・戦時下の人々
- ・戦争の終結
- ・「原爆ドームの保存と平和への願い」

【歴史】

- ・民主化と日本国憲法
- ・冷戦の開始と植民地の解放
- ・独立の回復と55年体制
- ・日本の高度経済成長
- ・マスメディアと現代の文化

上級学年・中学校
との関連

・冷戦後の国際社会
・変化の中の日本
・持続可能な社会に向けて

【公民】
・国際連合の仕組みと役割
・地球環境問題-持続可能な社会の実現
・資源・エネルギー

上級学年・中学校
との関連

問題・限られる資源
と環境への配慮
・貧困問題-公正な
世界を創る
・新しい戦争-平和
な世界に向けて
・日本の外交の現
状と課題
・世界とつながる日
本
・世界平和のために
・より良い社会を目
指して
・基本的人権と個人
の尊重
・平等権-共生社会
を目指して

【地理】
・広大な国土と工業
化した農業
・工業の発展と工業
地域
・産業を支える新し
い文化と人々
・「多民族社会を形
成するアメリカ」
・成長する東アジア
2中国の発展
・成長する東アジア
1アジアNIESの出
現
・資源の豊かな西ア
ジア・中央アジア
・「アジアで交流す
る文化」
・情報を集めて調査
テーマを決めよう
・調査の準備をしよう
・調査をしよう

【公民】
・多文化共生を目指
して
・文化の多様性の
尊重
・世界とつながる日
本

【歴史】
・世界の資源・エネ
ルギーと産業
・持続可能な社会を
創る

【公民】
・持続可能な社会に

上級学年・中学校
との関連

・持続可能な社会に
向けて
・国際連合の仕組
みと役割
・地球環境問題-持
続可能な社会の実
現
・資源・エネルギー
問題-限りある資源
と環境への配慮
・貧困問題-公正な
世界を創る
・新しい戦争-平和
な世界に向けて
・「パレスチナ問題
と中東和平」
・日本外交の現状と
課題
・世界とつながる日
本
・世界平和のために
・より良い社会を目
指して